

節其名籍ヲ添付スヘキハ當然ノ事ナルヘク被存候得共然モ仍ホ其送致ヲ要セツル儀ニ候哉右送否ハ囚人送移上多少ノ關係ヲ有シ候ニ付一應及御問合候條何分ノ御答有之度候也

○廳府縣長官東京三池集治監典獄宛警保局長ヨリ

通牒

明治二十七年五月二十二日(乙卯二四二號)

囚人移送ノトキハ身分帳ヲ添付シ身分帳ノ調製ナキモノハ之レニ交フル處ノ一件書類及名籍原簿ノ寫ヲ添付シ刑事被告人ナルトキハ名籍原簿ノ寫ヲ添付スヘキ筈ニ有之候條爲念此段及通牒候也

第十二類

賞典、處罰、戒具、役業、工錢

◎賞典

○廳府縣長官宛監獄局長通牒

明治十五年四月十日

監獄則第九十六條ニ依リ賞譽スル所ノ結果ハ假出獄ヲ許スノ根據ニ有之故ニ其賞譽ノ目的ヲ異ニスルトキハ遂ニ罪囚ヲシテ彼此幸不幸ヲ蒙ラシムルニ至ル豈忽カセニスヘケンヤ依テ今般別冊内規則ヲ制シ貴官迄差進候條御(廳)府(縣)典獄へ御授與相成度尤此内規ハ可成他ニ漏洩セシメス典獄ノ手元限ニテ比例候様致度候條此意モ得セシメラレ度内務卿ノ命ニ依リ此段申進候也  
(集治監典獄へハ前文差進候條ノ以下可成他ニ漏洩セサル様御手元限ニテ御取扱相成度此段申進候也トアリ)

已決囚賞譽勸查内規

第一條 監獄則第四篇第二章中ノ例ニ從ヒ囚徒ニ賞譽ヲ行ハントスルトキハ左

賞典



ノ各條ニ記スル所ノ旨趣ヲ準據トシ其行否ヲ勘査ス可キ者トス

第二條 各囚ノ刑期ヲ四分シ又其三分ヲ五分シテ其一分ニ當ル毎期限ノ末若クハ之ヲ經タル後ニ在テ一期限一次ノ賞譽ヲ行ヒ得可キ者トス其期限ノ算定ハ概載例ニ揭ク

前項刑期ノ三分ヲ五分スルニ當リ除シ得サル時零ノ時間未滿アルトキハ最末期即チ第五期ニ併算ス

第三條 賞譽セントスルトキハ先ツ平常ノ行狀録ヲ勘査シ真心改悛ノ狀アルヲ確認シテ之ヲ行フ者トス

故意ニ非スシテ一朝ノ過誤ニテ獄則ヲ犯シ若クハ第四條ニ記載セシ數款中ニ照シ未タ聊カ欠ケル所アルモ平常ノ舉止改悔セシ者ト確認スルトキハ賞譽スルヲ得

第四條 賞譽ハ左ノ第一款ノ主旨ヲ守リ第二款以下ノ中孰レニカ適合シタル行爲アル者ヲ選ミ前條ニ謂ル期限ニ從ヒ之ヲ行フ者トス其既ニ一次又ハ二三賞譽セシ者ト雖モ追次賞譽ヘキ事由ナキトキハ前賞ノミニ止ム

一 獄則ヲ謹守シ常ニ弛ミ怠ルノ狀ナキ者

一 常ニ尊屬親ヲ報養セントスルノ志最モ厚ク且ツ他日自活ノ道ニ就ク可シト認タル者

一 作業ニ精勵シ常ニ衣食費ヲ償フニ足ルノ工錢ヲ得ル者

一 真心悛改ノ狀著ハレ他囚ノ標的トナル可キ善行アル者

第五條 舊法ニ依テ處刑セラレタル囚徒モ亦前數條ノ例ニ從テ勘査シ賞譽シ得ヘキ者トス

其無刑期ノ者ハ十五年ヲ五分シ其一分ニ當ル期限末若クハ之ヲ經過セシ後ニ在テ一期限一次賞譽スルヲ得

其既ニ經過セシ年數ハ既往ノ期限ニ推照シ數個ノ賞表ヲ一併ニ付與スルヲ得

第六條 一朝奇特ノ行爲アリシニ由リ舊法ニ照シテ本刑減等ノ恩典ヲ蒙リシ者及ヒ賞與ヲ受シ者又ハ監獄則第百條ニ照シ賞與セシ者等ハ賞譽ヲ行フ可キ勘査考據トナスヲ得ス

前項ニ記スル減等者ノ刑期ニ係ル五分期限ヲ除定スルハ其減刑ノ期ニ原キテ



起算スヘキ者トス

第七條 刑期四分ノ三ヲ經シ後ニ至ラハ假出獄ヲ許シテ可ナル者ト揣度シタル  
 囚アルトキハ其期ニ迫ラサル以前ニ在テ次項ノ如ク取計フ可キ者トス  
 前項ノ揣度ヲ下シタルトキハ其囚ノ行狀ヲ詳録シ刑期四分ノ三ヲ過レハ假出  
 獄ヲ許サレンコトヲ豫メ内務司法兩卿ニ申稟スルヲ得但行狀録ハ勉メテ文飾ニ  
 流レヌ切實ニ事實ヲ證明スルヲ要ス

其申稟ヲ爲ストキハ宣告ヲ受タル裁判所ノ名及ヒ處刑宣告書ノ謄寫一本ヲ具  
 ス可キ者トス

第八條 前條ノ申稟ヲ爲ス未タ假出獄ノ許可監署ニ達セサルノ際若シ獄則其他  
 ノ法律ヲ犯シタルトキハ其執行ヲ停メンコトヲ内務司法兩卿ニ具狀スル者トス

第九條 賞表ヲ與ヘシ後若シ之ヲ懲罰シテ其賞表ヲ褫奪シタルトキハ其奪票一  
 個ニ就キ登時ヨリ賞譽期限ノ一期以上二期以下ヲ行狀勘査時間ト爲ス  
 前項ノ時間ヲ經過スルノ間改悔ノ狀著ハルレハ更ニ賞譽シ又ハ假出獄セシメ  
 ント申稟スルヲ得但第三條第二項ニ照シテ裁酌ス可キ者トス

已決囚賞譽時限概載例

刑 期	刑 期 四 分 ノ 三	又 五 分	第 一 期 全	第 二 期 全	第 三 期 全	第 四 期 全	第 五 期 全	刑 期 四 分 ノ 一
一 年	九 月 一 日	二 十 四 日	一 十 四 日	二 十 四 日	二 十 四 日	二 十 四 日	二 十 四 日	三 月 一 日
六 月	一 月 一 日	二 十 日	一 十 日	二 十 日	二 十 日	二 十 日	二 十 日	四 月 一 日
三 月	一 月 一 日	十 日	十 日	十 日	十 日	十 日	十 日	六 月 一 日
二 月	一 月 一 日	七 日	七 日	七 日	七 日	七 日	七 日	九 月 一 日
一 月	一 月 一 日	五 日	五 日	五 日	五 日	五 日	五 日	十 月 一 日
六 月	一 月 一 日	三 日	三 日	三 日	三 日	三 日	三 日	十 一 月 一 日
三 月	一 月 一 日	二 日	二 日	二 日	二 日	二 日	二 日	十 二 月 一 日
二 月	一 月 一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 年 一 月 一 日
一 月	一 月 一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 日	一 年 一 月 一 日
無 期	十 五 年	三 年	一 年	一 年	一 年	一 年	一 年	一 年



○廳府縣長官集治監假留監典獄宛警保局長

通牒 明治二十三年三月二十八日

假出獄上申ニ係ル囚徒ノ刑期四分ノ三計算方區々ニ涉リ訂正等ノ手數ノ爲メ時  
日遷延候ニ付以來別紙算出例ニ依リ調査相成候様致度此段及御通牒候也

(別紙)

刑期四分ノ三算出例

一 刑期ノ曆ニ依ルモノハ曆ニ從ヒ左ノ如ク計算スルモノトス

例

刑期六年 明治二十一年 此ノ四分ノ三 四年六ヶ月  
一月五日宣告

自明治二十一年七月五日 刑期四分ノ一

至全 二十二年七月五日 刑期四分ノ二

自全 二十四年七月五日 刑期四分ノ三

至全 二十五年七月五日 滿 期

一 其刑期年ト月トニ跨リ即チ何年何月ト科セラレタルモノニアリテハ宣告

ヨリ滿期マテヲ現日數ニ直シ之ヲ四分シテ以テ其三ヲ見ルモノトス但此  
四分ノ三ヲ見ルニ當リ日數ノ都合ニ依リ除シ得サル時零ノ時間未滿ヲ生  
スルトキハ四分ノ三中へ併算スルモノトス

○警視廳各府縣典獄宛監獄局長通牒 明治十八年六月四日

假出獄ノ考據トスヘキ賞表ハ舊刑法ニ依テ處刑セラレタル者ハ勘査内規第五條  
新刑法ニ依テ處刑セラレタル者ハ全内規第二條ニ依リテ之ヲ付與スヘキ例ナル  
ニ或ハ新刑法受刑者ニ賞表數個ヲ一併ニ付與シ或ハ新舊刑法受刑者ニ例揭ノ期  
ニ從ヒ賞表ヲ與ヘテ假出獄ノ證議ヌ可キ筈之處其不足ノ儘ニテ上申相成候向モ  
無之トセス自然其事ノアル時ハ夫レカ爲メ特ニ照會ヲ要シ日子ヲ費シ候間右様  
ノ儀無之様豫メ御注意相成度因テ此段爲念申進候也  
追テ表セラレタル者ヲ假出獄アラシコトヲ申稟アルトキハ特ニ勘査時限ノ  
行狀ヲ詳細御記載相成度候也



○右ニ付監獄局長ヨリ樺戸空知宮城三池東京  
五集治監兵庫假留監典獄へ通知

明治十八年六月四日

別紙之通警視廳并各府縣正副典獄へ及通牒候間御心得迄ニ此段及御通知候也  
(別紙ハ前掲ノ通牒ナリ)

○司法省回答

明治十五年十二月二十八日

假出獄上申期限等ノ儀ニ付各地典獄へ御内示相成候旨乾監甲第三八九號ヲ以テ  
内規相添御通牒ノ趣委詳了承致候此段及御回答候也

○内務省ヨリ司法省へ照會

明治十五年十一月二十二日

改悛ノ狀著シキ囚徒假出獄ノ儀ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スレハ之ヲ許可スル運  
ビニ有之候處之ヲ申稟セシムルニハ果シテ改悛ノ狀アルモノト認メタルトキハ  
其期ニ追ラサル以前ニ在テ豫メ上申爲致其間ニ於テ若シ犯罪アレハ其旨更ニ具  
狀セシメ可然儀ト存候期限經過後ニアラサレハ申稟セシメサルモノトセハ其與

フヘキ期限内ニ於テ常ニ若干ノ日子ヲ費シ短期ノ囚ニシテ僻遠ノ監獄ニ在ルモ  
ノ、如キハ認可ノ達スル日已ニ滿期放免ニ至ルモノ無キヲ保シ難キニ由リ會テ  
賞表附與ノ儀ニ付監獄局長ヨリ各地方典獄ニ内示爲致候別紙内規第七八條ニ於  
テ其取扱方ヲモ併テ揭示致置候條可然御了承有之度依之右一部相添此段得貴意  
候也

○警保局長回答

明治二十三年四月十六日

本月十一日乙第四百一十一號ヲ以テ流刑囚賞譽勸查期限ノ儀ニ付御照會之趣了承  
右ハ御意見ノ通ニテ可然存候此段及御回答候也

○宮城集治監典獄照會

明治二十三年四月十一日

囚人賞譽期限ノ儀ハ賞譽勸查内規ニ明示有之即チ有刑期ノ者ハ刑期四分ノ三無  
刑期ノ者ハ十五年共ニ假出獄ノ期ニ達スル迄ニハ賞表五箇ヲ與ヘ得ラルヘキ筋  
ニ有之然ルニ流刑ノ囚ハ此内規ニ依ルトキハ有期無期トモニ免幽閉ノ期ニ達ス



ル迄ニハ五箇ヲ與フルコト能ハス又一方ニ於テハ之レカ爲メ有表者優遇上ノ點ニモ關係有之旁權術如何哉ニ被存候ニ付流刑囚ハ有期ハ三年無期ハ五年ヲ五分シ其一分ニ當ルモノヲ賞譽ノ一期限ト致シ可然哉他ニ例規モ不見當候ニ付何分ノ御垂示有之度此段及御照會候也

○内務省指令 明治二十三年三月二十六日

客年八月三十日付監第三三號伺囚人へ付與シタル賞表ノ件伺ノ通

○警保局長通牒 明治二十三年三月二十六日

本年三月二十六日囚人賞表ノ件ニ付指令相成候處右數刑繼續執行者ノ行狀調査ハ後刑ヲ受ケタル毎ニ前後ノ刑期ヲ通算シテ一刑ノ者ト見做シ其勸查期ヲ算出シ當時ヨリ以後ハ更ニ此期限ニ依リ勸查シ各別ニハ計算セサル儀ニ付右様御承知有之度此段及御通牒候也

○警視廳伺 明治二十二年八月三十日

數刑ヲ受ケシ囚人當初執行ノ刑期間ニ於テ監獄則第四十條ニ依リ賞表若干ヲ付與シタルトキハ同刑滿期後更ニ次刑執行ニ際スルモ所持賞表ハ消滅スルノ限リニ無之哉何分ノ御指令相成度此段相伺候也

○警保局長回答 明治二十五年三月二十八日

本年一日十八日第三三六號ヲ以テ御照會ノ刑期計算ノ件第一項第三項ハ御見解ノ通り第二項ハ前段御見解ノ通りト被存候尤第一項後段及第二項ノ場合ハ仍ホ事實ニ就キ詳細御問合相成候様致度此段及回答候也

○北海道廳長官照會 明治二十五年一月十八日

囚人刑期計算方疑義ノ廉有之候ニ付左ノ各項御明示ヲ煩ハシ度  
第一項 舊法ニ據リ懲役十年ニ處セラレ服役中逃走シ外ニ在リテ強盜罪ヲ犯シ新法實施後ニ至リ發覺有期徒刑十三年ニ處セラレタルモノアリ右ハ所犯舊法



中ニ係ルヲ以テ假出獄ヲ申請シ得ラル、モノトスル時ハ刑期四分ノ三ノ計算方ハ前刑後刑ヲ併セ二十三年ヲ刑期トシ算出スヘキ哉若シ後刑無期徒刑ナル時ハ懲役十年ノ四分ノ三ト滿十五年トヲ併セ算出スヘキ哉

第二項 懲役終身ト無期徒刑(新法實施前ノ犯罪ニ係リタルモノ)ニ處セラレタル時ハ通計三十年ヲ以テ假出獄ヲ申請シ得ル儀ニ候哉將タ單ニ十五年ヲ經過シタル後申請シ得ラル、儀ニ候哉

第三項 餘罪發覺刑法第百二條ニ依リ前刑通算シタルモ宣告書ノ結果ニ依リ左ノ甲乙二様ヲ生スル場合アリ

一(宣告書寫略)甲何某ヲ有期徒刑十四年ニ處ス但處ニ重禁錮二年ノ宣告ヲ受ケ既ニ執行ヲ受ケタルヲ以テ刑法第百二條ニ依リ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス

一(宣告書寫略)乙有期徒刑十四年ノ處已ニ執行ヲ受ケタル重禁錮二年ノ餘罪ニ係ルヲ以テ刑法第百二條ニ依リ之ヲ扣除シ剩ル有期徒刑十二年ニ處ス右甲乙宣告日ヲ仮リニ十七年五月十一日トスル時ハ甲ハ十四年ノ四分ノ三即

チ十年ト六ヶ月ニ仮定宣告日ヲ加ヘ既ニ役過セシ重禁錮ヲ扣除スル時ハ明治二十五年十一月十一日トナル又乙ハ十二年ノ四分ノ三即チ九年ニ仮定宣告日ヲ加フル時ハ二十六年五月十日トナリ彼是同性質ノモノニシテ以上ノ差ヲ生スルハ起算日ノ異ナル結果ニシテ穩當ナラサルモノニ付乙ノ如キ宣告ノモノト雖モ十四年ヲ基礎トシテ刑期計算然ルヘク哉  
右及照會候也

### ◎處 罰

○内務省指令 明治二十二年九月十二日

本年八月二十一日發第一〇九號伺屏禁囚食糧ノ件聞届ケ難シ

○三池集治監伺 明治二十二年八月二十一日

監獄則第四十二條屏禁囚徒食糧ノ儀坐作ノ役ヲ課スルモノニ付第二十八條第二



項ノ食糧五合乃至六合ヲ給スヘキモノ、如ク候得共抑二十八條指定ノ食糧ハ通常房外服從囚ニ給スヘキ量ニシテ屏禁囚ハ役ヲ課スルモ僅々指頭ノ業ニ止リ候モノナレハ多少ノ勞働ヲ要スル房外ノ役囚同様ノ食糧ヲ給スルハ其權衡ヲ得サル様被考候固ヨリ屏禁ハ一房内ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課スルモノナレハ總テ懲罰ノ意ヲ含ミ處置スルハ至當ノ事ニ付四合食ヲ給シ可然哉若シ五合六合ノ食ヲ給スル者トスレハ更ニ痛苦ヲ感スル點ナキノミナラス反テ役ヲ採ラシムル爲メ消暑無聊ノ苦ヲ感スル種子トナリテ徒ニ懲罰ノ効力ヲシテ薄カラシムル耳ナラス其處罰ヲ甘受スルノ弊ヲ來シ可申歟ト存候就テハ本監ニ於テハ四合食ヲ給スルノ見込ニ候ヘ共本則中其明文モ無之ニ付此段相伺候也

○内務省指令 明治二十二年八月二十日

別房留置者ノ減食方ハ従前ノ通り

○岐阜縣伺 明治二十二年八月十日

刑法附則第三十二條及ヒ同第四十七條ニ依リ監獄ノ別房ニ留置シタル者若シ監内ノ諸則ヲ犯ストキハ明治十六年十二月太政官第六十二號御達ニ據リ改正監獄則第四十二條及ヒ同第四十三條ニ準據シ減食ノ處分ヲ爲シ可然哉

○内務省指令 明治二十三年七月八日

本年六月二十五日集庶發第五十六號付伺監獄則第四十五條ニ關スル疑義ノ件施飲ノ罰ニ處ヌヘキモノニアラス

○東京集治監伺 明治二十三年六月二十五日

茲ニ無期徒刑ノ囚人逃走シ三年以上ヲ經過シテ捕獲セラレタルモノアランニ其逃走罪ハ既ニ公訴期滿免除ヲ得タル者ニ付檢察官ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲サス原刑執行アリタシトノ通知アリシ者ニ對シテハ監獄則第四十五條ノ制裁モ共ニ免除スヘキモノナル乎獄則ニ其明文無之ト雖モ主刑ニ對シ免除ヲ得タルモノニモ不拘處罰スルハ如何ノモノヤニ被考候得共獄則ハ普通刑法トモ異ナリ治獄上既



ニ犯シタルモノハ凡テ刑法ノ如キ期滿免除ヲ與フヘキ律意ニ無之哉現ニ公訴期滿免除ヲ得タルモノニ對シ施飲ノ處分ヲ爲シ送付シ來リタルモノアリ右ハ如何心得可然哉

○内務省指令

明治二十一年七月十九日

伺ノ通

○茨城縣伺

明治二十一年六月二十三日

在監人獄則ヲ犯シ未タ處罰ヲ經サル中其性質ヲ變シタル場合ニ於テ處罰スヘキ儀ハ明治十七年五月中京都府伺指令ニ依リ明瞭ナリト雖モ主刑執行中獄則ヲ犯シ處罰ヲ經サル中刑期已ニ滿チ別房ニ留置シタルモノニモ現時ノ罰ヲ以テ處分シ可然哉

○内務省指令

明治十六年二月十九日

免役日ト雖モ停止スヘキモノニアラス

○空知集治監伺

明治十六年一月五日

無期徒刑ノ囚又犯罪アツテ監獄則第九九條ニヨリ懲鎖執行ノ儀同則第四十四條ニ記載シタル免役日ハ無論其執行ヲ停止スヘキ儀ト存候得共同則中別ニ明文無之ニ付如何相心得可然哉

○内務省指令

第一項前段伺ノ通第二項獄則ヲ以テ罰スル限ニ非ス

○京都府伺

明治十八年六月二十四日

一茲ニ無期徒刑又ハ懲役終身ノ者刑期限内逃走セシユトヲ包藏シ其後ノ犯罪ニ依リ新タニ處刑ヲ受ケタルモノアリ其刑執行中前包藏罪發覺スルヲ以テ最初ノ無期徒刑等執行方檢察官ヨリ指揮スルアリ此場合ニアリテハ無期徒刑ハ府縣監



獄ニ於テ執行スヘキモノニ無之ニ付假留監ニ該囚ヲ押送セサルヲ得ス就テハ此者ニ對スル監獄則第百九條ノ處罰ハ府縣監獄ニ於テ申渡ヲナシ其執行方假留監ニ嘱托スヘキノミニ候哉又ハ右ノ場合ニ於テ府縣監獄ニテハ執行スル暇ナキモノニ付假留監等ニテ處分スヘキモノニ候哉

一 無期刑前條ニ掲ケル無期刑ノモノヲ云フノ囚徒逃走就縛ノモノアリ然シテ其逃走罪ハ既ニ期滿免除ニ屬シタルヲ以テ檢察官ハ起訴ヲナサズ本刑執行方ヲ指揮スルアリ此場合ニ在テモ監獄則第百九條ノ懲罰處分ハナスヘキモノニ候哉

○内務省指令 明治十五年七月二十一日

第一項何ノ通但公判判事ハ罪ノ有無輕重ヲ判定スルノミナラス其有罪ト見込モノハ刑法各本條ニ依リ刑ノ言渡ヲモ爲スモノトス

○岐阜縣伺 明治十五年七月十五日

一 無期徒刑及終身懲役ノ囚逃走若クハ獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重

罪輕罪ヲ犯シタルトキハ監獄則第百九條ニ從ヒ司獄官ニ於テ處罰シ可然候得共罪ノ有無輕重ハ法官ノ斷定スル所ニ任セサルヲ得サル故右ノ所爲アルモノハ都テ公判ヲ經ヘキ儀ト心得可然哉

○司法省内訓第三二一四號 明治十五年五月二十五日

大審院 裁判所 警視廳 府縣東京府ヲ除ク

無期刑ノ囚徒又罪ヲ犯シタル時ハ裁判所ニ於テ刑法各本條ニ依リ裁判宣告ヲ爲シタル後仍ホ司獄官吏ニ於テ監獄則ニ依リ懲罰スル儀ト心得ヘシ此旨及内訓候也

○太政官第六十二號 明治二十六年十二月二十日

官省院廳府縣

監獄則第三十條ニ依リ監獄中ノ別房ニ留置シタル者及ヒ刑法附則第三十二條ニ依リ別房ニ留置シタル者若シ監内ノ諸則ヲ犯ストキハ監獄則第百七條ニ準據處



分ヌヘシ  
此旨相違候事

○内務大臣指令 明治二十七年十月十三日

本年四月二十七日發一第一八號伺囚人取扱ノ件左ノ通心得ヘシ

- 第一項 獄罰ニ處スルモ妨ケナシ
- 第二項 作業用トシテ貸與スルハ妨ケナシ
- 第三項 懲罰ヲ中止スル限ニ非ス但シ屏禁處罰中ノ者ハ坐作ノ業ヲ免ス
- 第四項 役ヲ免シ罰期ニ算入スルモノトス
- 第五項 課役セシムヘキモノトス

○囚人取扱方ノ儀ニ付宮崎縣伺 明治二十七年四月二十七日

囚人取扱上左ノ各件疑義有之候ニ付相伺候條至急何分ノ御指令相仰候也

第一 刑ノ執行中罪ヲ犯シ檢事ニ告發シタル場合ニ於テハ尙其事件ニ對シ獄則

處分ヲ加フヘシトノ論アリ其説ク處假令告發ノ手續ヲ爲シ刑事ノ制裁ハ之レヲ受クルモノトスルモ素ヨリ獄内ニ於テノ所爲ナレハ監獄ノ規律ヲ保維スル上ニ付テハ勿論獄罰ニ處スヘシト或ハ云フ其事件刑事ニ觸レ告發シタル上ハ同一事件ニ對シ獄罰ニ處スルハ甚タ穩ナラスト右ハ如何相心得可然哉

第二 囚徒就役ノ際肩掛運搬就役又ハ前掛紙漉又ハ竹膝當テ等ヲ用シムルハ被服ノ保存上ニ關スルノミナラス竹工等ノ如キハ實際之レヲ用シメサレハ就業上差支候次第ニ有之付テ監獄則第五十八條規定外ノ物品ニハ候得共當然貸與致シ可然哉

第三 父母ノ喪ニ遭フ者其死ヲ哀悼スルハ則人性ノ至情ニシテ其喪ニ遭フ時ハ三日間ノ免役ヲ與ヘラル、如キ必尙哀悼ノ意ヲ表セシムル等ノ御趣旨ナルヘシ然ルニ獄則ニ違犯シ處罰中ノ取扱ニ至テ明文無之隨テ區々ノ取扱有之哉ニ被考候前顯ノ事情ニ依リ之レヲ推考スルトキハ無論其懲罰ハ中止スヘキモノノ如シ右ハ如何相心得可然哉

第四 屏禁處分ハ服役時間座作ノ業ヲ取ラシムルヲ以テ即チ一ノ獄罰處分タリ

處罰



然ルニ監獄則第十八條ノ免役日ノ如キハ縦令處分中ノモノナリト云フト雖モ之レニ役ヲ取ラシムルハ同條ニ抵觸スルノ恐レアリ去リ迎又課役セシメサルハ處罰ノ一要素タル條件ヲ欠クモノナレハ處罰ノ日數ニハ計等シ能ハサルヘク如何取扱可然哉

第五 前項ノ如ク屏禁ハ課役セシムルヲ以テ一ノ獄罰處分タレハ無定役囚ト雖モ該獄罰ニ處シタルトキハ課役セシメサルヲ得ス然リト雖モ固ト無定役囚タル上ハ役ヲ課スルモ亦穩ナラサルカ如シ右ハ如何取扱可然哉

○内務省指令 明治二十五年二月十五日

本年二月二日監第九五號伺別房留置人處罰方ノ件ハ従前ノ通取扱フ儀ト心得ヘシ

○福島縣伺 明治二十五年二月二日

在監囚人ノ内ニテ監視ニ附セラレタルモノ本刑滿期ノ後チ一定ノ住居及引取人

ナク又ハ住居地遠隔ニシテ歸郷ノ資力ナキカ爲メ刑法附則第三十二條ニ基キ監獄中ノ別房ニ留置シタル者獄則違犯スルトキハ舊監獄則第一百七條ニ從ヒ處罰スヘキ旨明治十六年十二月第六十二號公達有之候處該達ハ去ル二十二年監獄則改正ト同時ニ消滅セシ儀ニ候哉將又刑法附則ニ據リ別房ニ留置シタルモノ獄則違犯セシトキハ該公達ニ基キ現行ノ監獄則第四十二條同第四十三條ヲ準據シ處罰シ可然哉此段相伺候也

○内務省指令 明治二十二年十月十五日

従前ノ通處分スヘシ

○滋賀縣伺 明治二十二年八月三十一日

前照別房留置人ヲ指スノ者獄則ヲ犯ストキハ十六年太政官六十二號ノ達ニ從ヒ改正監獄則ニ照シ處分シ可然乎



◎戒具

○太政官第六十五號

明治六年二月二十日

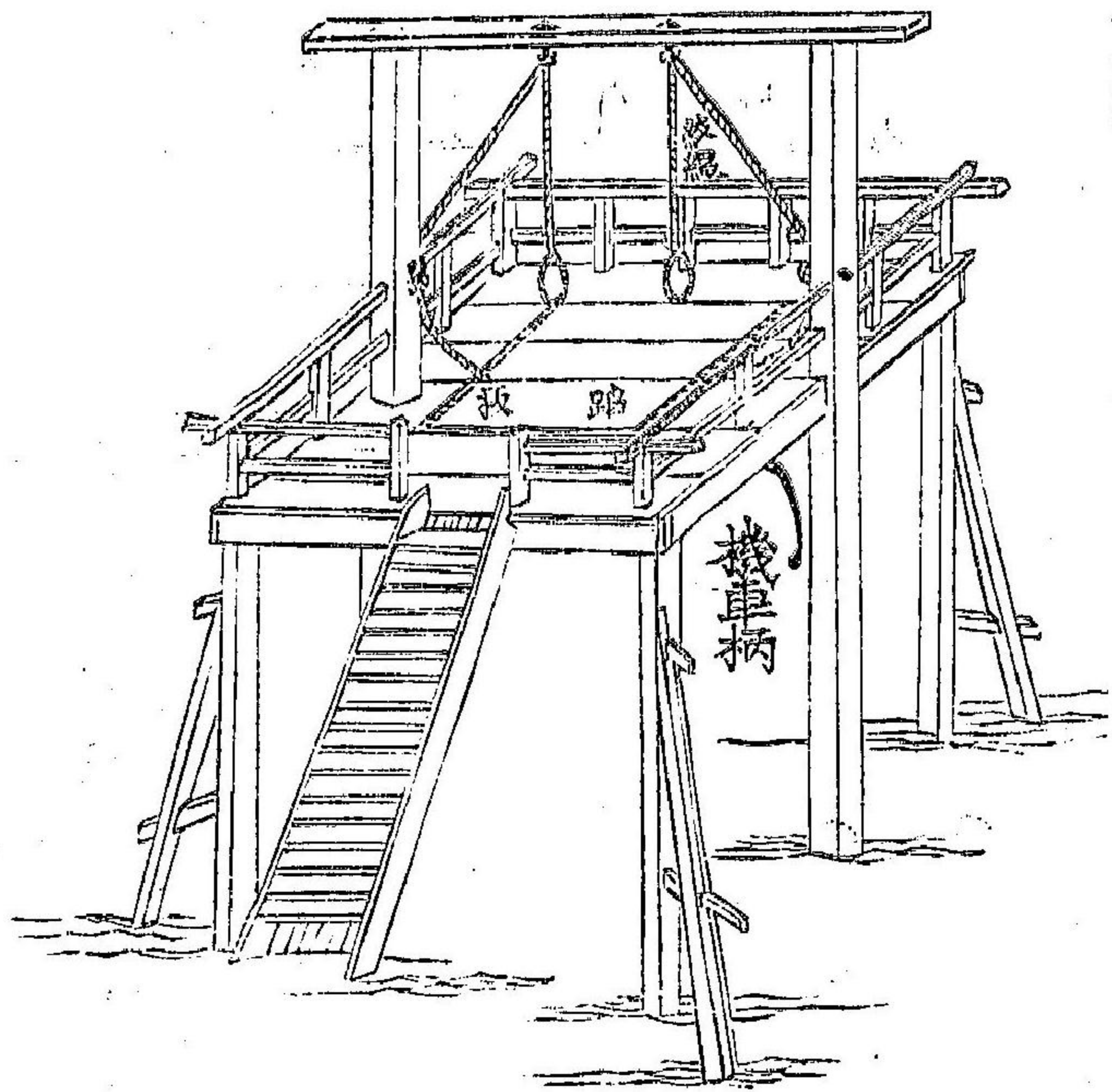
府

縣

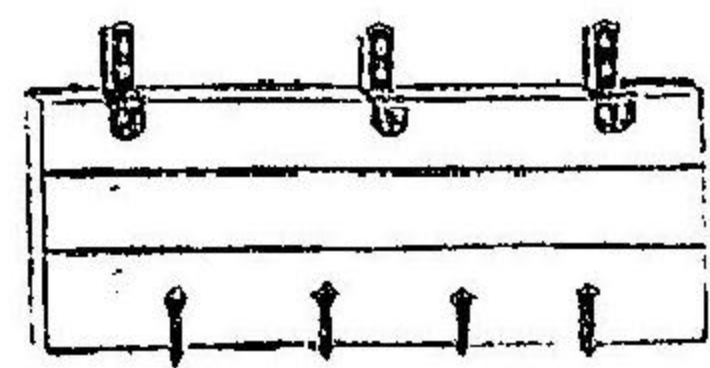
絞罪器械別紙圖式ノ通改正相成候間各地方ニ於テ右圖式ニ從ヒ製造可致事  
絞架全圖

本圖死囚二人ヲ絞ス可キ裝構ナリト雖モ其三人以上ノ處刑ニ用ルモ亦之ニ  
模倣シテ作リ礎墨ヲ以テ全ク塗ルヘシ  
凡絞刑ヲ行フニハ先ツ兩手ヲ背ニ縛シ紙ニテ面ヲ掩ヒ引テ絞架ニ登セ踏板  
上ニ立シメ次ニ兩足ヲ縛シ次ニ絞繩ヲ首領ニ絶シ其咽喉ニ當ラシメ繩ヲ穿  
ツトコロノ鐵環ヲ頂後ニ及ホシ之ヲ緊縮ス次ニ機車ノ柄ヲ挽ケハ踏板忽チ  
開落シテ囚身地ヲ離ル凡一尺空ニ懸ル凡二分時死相ヲ驗シテ解下ス(凡絞刑云々以  
下ハ原文絞架圖面ノ後ニアリ)

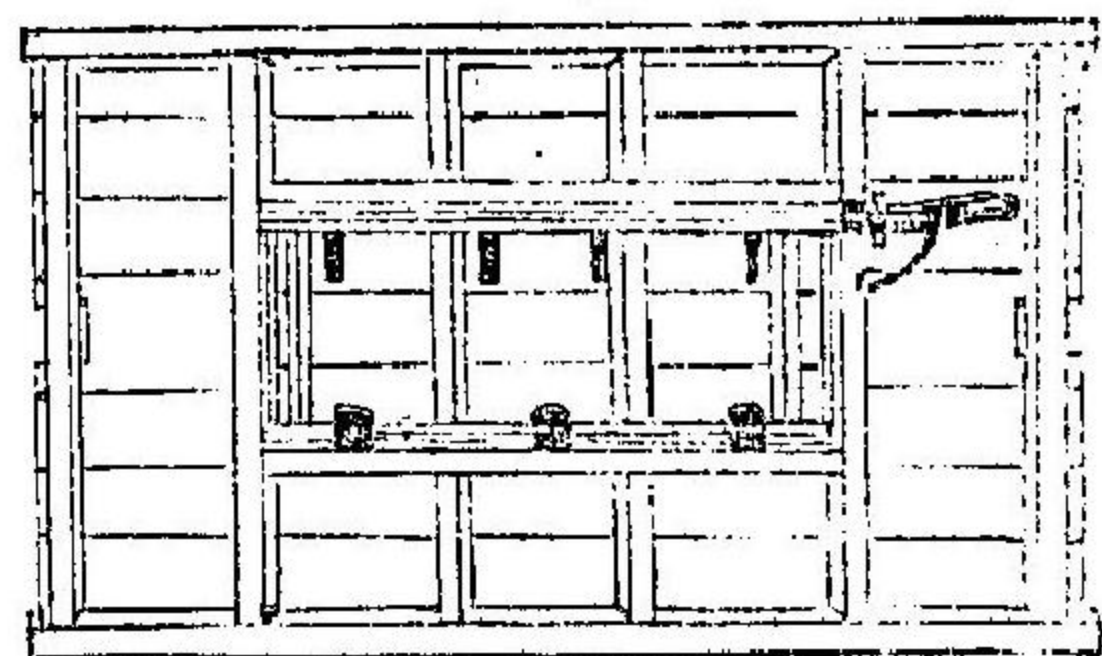
(別紙)



踏板表面圖



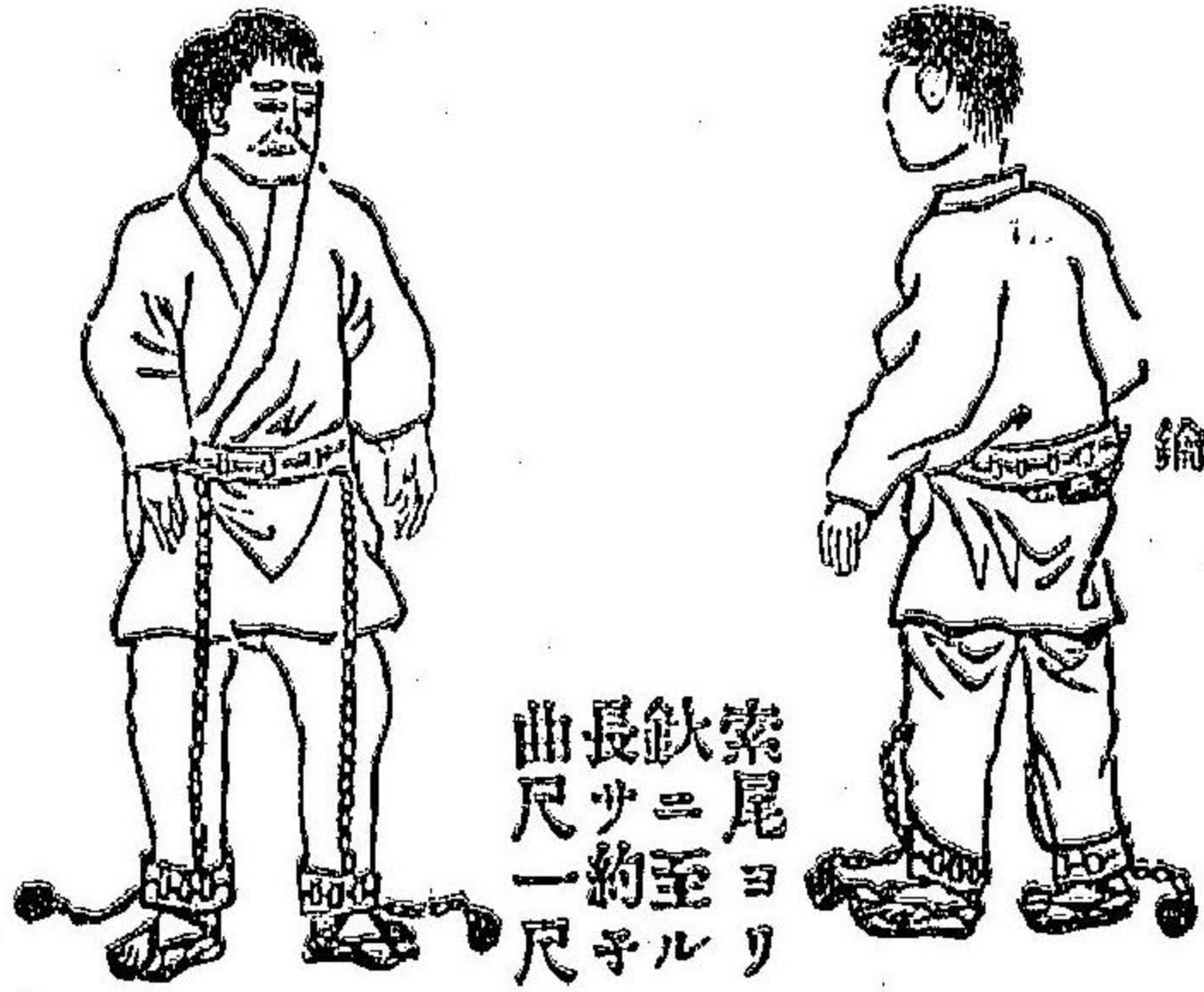
踏板裏面圖



戒具

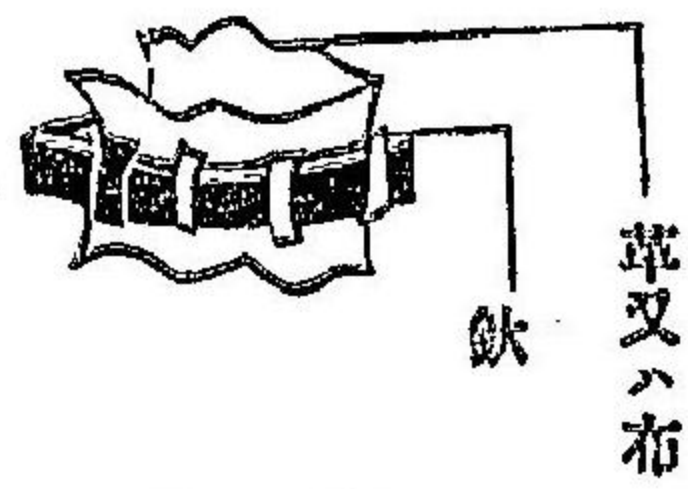
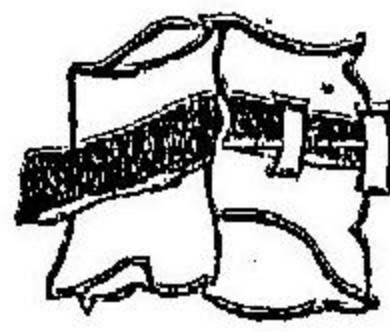
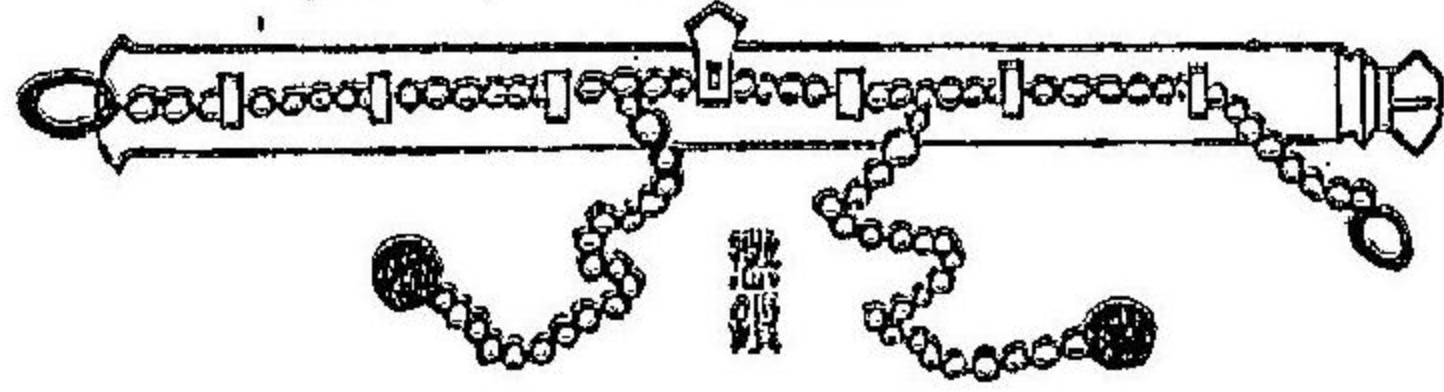


無期 徒刑 ノ 又 罪 鎖 施 圖  
ル レ タ サ ヲ シ ヲ

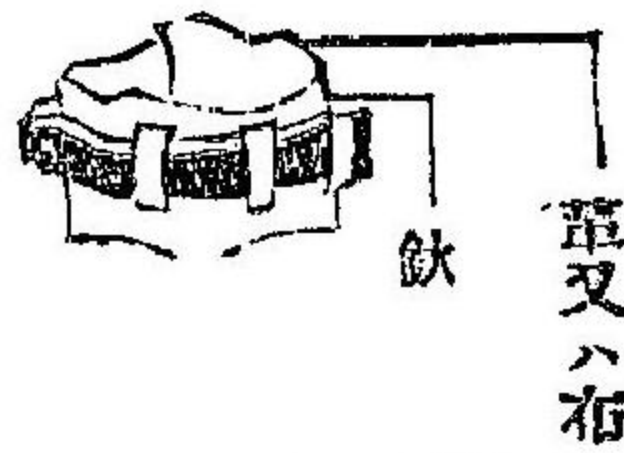
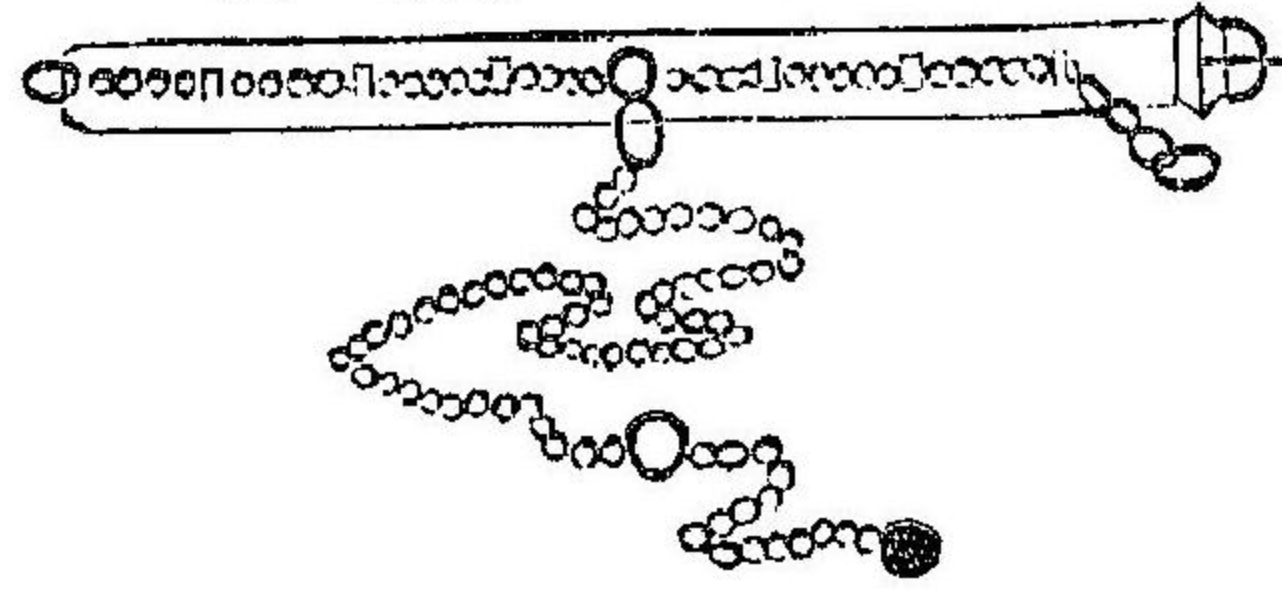


索尾ニヨリ  
欽至約一尺  
長サ約一尺  
曲尺一尺

鎖帶ニ屬シタル圖



脚ニ施スヘキ鎖ノ圖



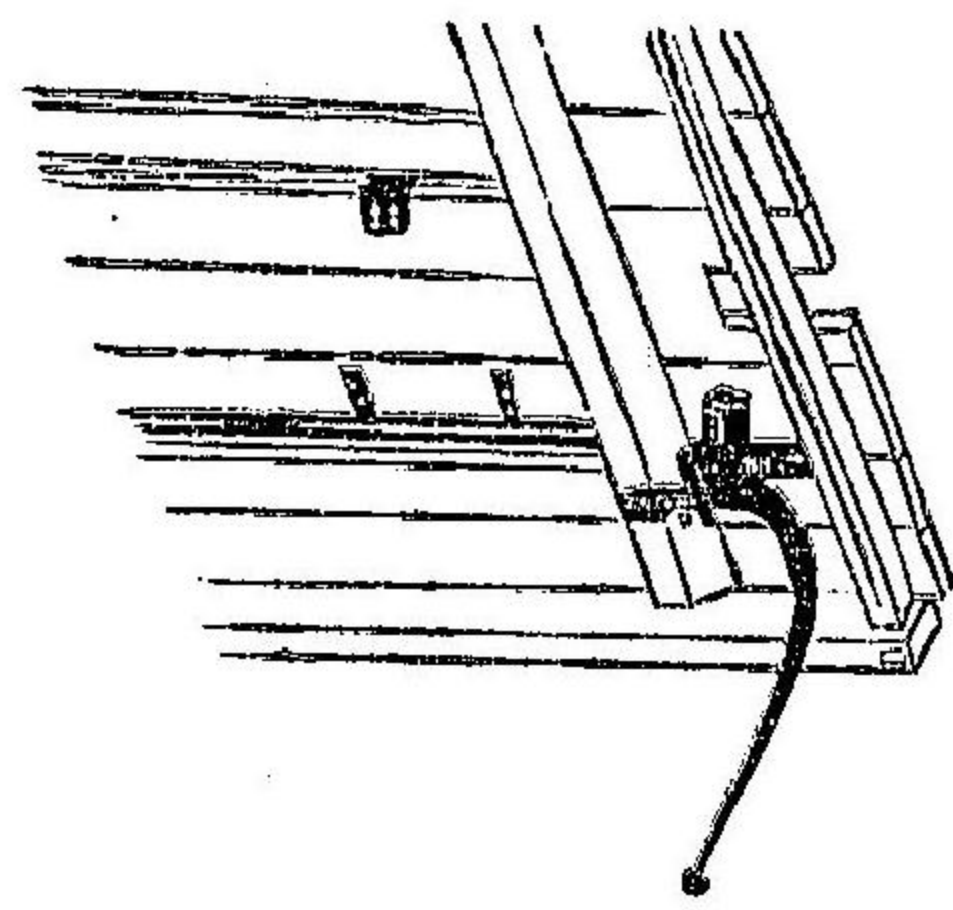
達候事  
監獄則第十七條ノ覆面巾及ヒ第百九條ノ罰具左ノ圖式ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相

○内務省乙第六十三號

明治十四年十二月二十二日

警視廳 府縣 東京府 集治監

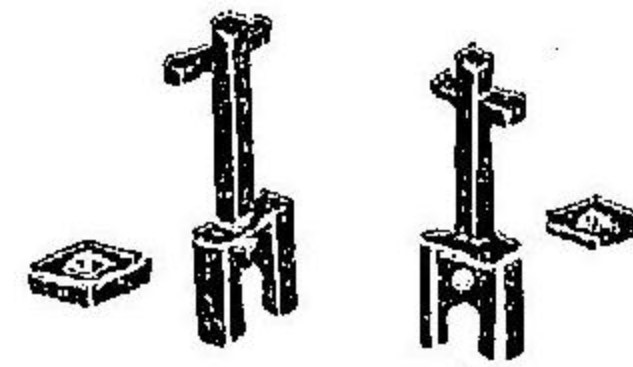
機車裝置圖



螺旋圖



絞繩鑲圖



機車圖



機車屬鐵板圖



鐵板架圖



絞繩略圖(繩長二丈五尺)





○内務省指令集甲第六四號

明治二十四年十二月十二日

東京集治監

本年十月十九日集庶發第八三號伺囚人取締ノ爲メ施械ノ件犯則囚處罰迄ノ間取締上必要アル場合ニ限リ施用スル儀ハ聞届ク

右ニ付明治二十五年十二月二十日内務書記官ヨリ應府縣東京府長官三池宮城兩集治監兵庫假留監典獄へ通牒

○東京集治監伺

明治二十四年十月十九日

本監拘禁ノ囚人ハ舊法懲役終身及有無期徒刑ニシテ皆ナ宿囚タル重罪者ナレハ再三犯以上ノ者其多キニ居リ甚シキニ至リテハ十數犯ノ者モ之レアリテ概テ頑冥痴愚ノ兇徒タラサルハナシ檢束上實ニ奈何トモナスヘカラサル場合不尠千百ノ囚人中或ハ腕力ヲ以テ官吏ニ抵抗ヲ試ミ或ハ破監ヲ企圖シテ兇暴ヲ逞フスルニ方リ懇篤訓誡ヲ加フルモ毫モ官命ヲ背ンセス容易ニ制遏スヘカラサルノ徒ニ對シテ科罰スルニ先チテ其機ニ投シ便宜適應ノ取締處分法ナカルヘカラサルハ

素ヨリ當然ニシテ既往ノ實蹟ニ徴スルモ之レカ必要ヲ認メ候茲ニ故監獄顧問御備教師ゼーバツハ氏ノ講述中典獄ヲシテ囚人ニ對シ施械(前紙圖面ニ示セル窄衣ヲ云フスルノ職權ヲ有セシムルモノ、如シ但シ或ハ之ヲ懲罰トシテ科スルモノアリ或ハ取締處分法トシテ強暴ヲ逞フシ或ハ腕力ヲ以テ抵抗ヲ試ミ或ハ自殺ヲ企テ或ハ逃走ヲ試ル等ノ囚人ニ對シテ之ヲ行フモノアリテ一様ナラス即チ緊要ナル場合ニ際シテ之ヲ施シ濫リニ弄用スルカ如キコトアルヘカラス又窄衣ノ處分ヲ受ケテ鎮厭セサル者ハ殆ント稀レナリ其之ヲ科スルハ長時間ニ渉ルヘカラス云々ト其所説ハ最モ適應且ツ至便ナル取締處分法ト思料候ニ付該窄衣ヲ一ノ戒具ト爲做シ又之ヲ取締處分トシテ施行候ハ、監獄内ノ規律ヲ保全スルニ於テ實際必要ノ具ト思料仕候間前陳ノ事情御省察ノ上取締處分法トシテ施械候儀御認可相成度此段稟申候也

追テ該窄衣製作ニ供スルノ料ハ硬皮若クハ堅強ナル織物(ズツクノ類)ヲ以テシテシテ其用方ハ胸膈及ヒ兩腕ヲ緊束スルモノニ有之候此段併テ添申候也



### ◎役業

○内務省訓示 明治十八年十二月二十二日

廳府縣東京府 集治監 假留置

監獄則第四十二條第二項及本省十四年乙第十五號達監署雜則第三條ニ依リ土工採鑛等ノ業アルニ際シ囚徒ヲ外役ニ服セシムルハ其監獄ヨリ一日間ニ往返シ得ヘキ地ニ限リ候主意ニ付外役ノ爲メ假監設置ヲ要スル儀ハ容易ニ無之筈ニ候得共若シ遠隔ノ地ニ滞宿外役セシメサルヲ得サル場合ニ於テハ假監ノ設置及檢束方等豫メ伺出候様可被致候右ハ從來執行後届出ノ向モ不尠候處囚徒逃走暴行等多クハ外役先又ハ假監拘禁中ニ係リ候ニ付尙一層不取締無之様致度趣旨ニ有之候間其邊宜ク諒知可有之候此旨及訓示候也

○内務省訓示

明治十八年六月六日

東京集治監 宮城集治監 兵庫假留置 府縣東京府

囚徒ヲ外役モシムル時ハ監獄則第四十二條第二三項ノ制限ニ從ヒ戒護可致ハ勿論ニ候處近來其外役先又ハ往返途上ニ於テ看守押丁等ニ暴行傷害ヲ加ヘ逃走スル者少カラス且之カ爲メ人民往々其兇虐ヲ被リ候趣ニ有之要スルニ暴行或ハ逃走ヲ企ツルハ多ク罪狀ノ重キ者及ヒ恒ニ獄則ヲ謹守セサル者等ニ起リ候ヘハ自今已ムヲ得ヌ外役セシムルトキハ一層嚴密ニ戒護シ各囚徒及ヒ懲罰人ノ内右等ノ徒ハ成ヘク其服役ニ加ヘス猶平素檢束ヲ加ヘ傲惰ヲ長セサル様注意スヘシ此旨訓示候也

○内務省指令

明治十六年三月二十四日

聽置候

○三池集治監上申

明治十六年三月七日

當監囚徒ノ儀ハ一半ヲ晝間ニ使役シ一半ヲ夜間ニ使役シテ晝夜間斷ナク從事セシメ候是ハ炭坑法ニ於テ斯クセサル可ラサル次第ニ有之候就テハ夜間使役スル

役業



者ニ限リ別ニ夜食ヲ給セサレハ到底役ニ耐ヘサル事ニ付夜食一度分ハ各囚常食ノ割合ヲ以テ給與方取計候條御聽置被下度候

○内務省指令甲第一〇九號

本年五月十六日内務部第四九八九號稟請囚人服役時間之件難聞届

○北海道廳伺 明治二十七年七月六日

在監人動作時限ハ監獄則施行細則ノ規定有之候處収穫期ニ際シ罷役ニ迫リテ大風雨ノ模様アリ一日ヲ延ハスニ於テハ容易ナラサル損失ヲ來タスカ如キ場合低窪ナル耕地ニシテ例年霖雨ノ後ハ侵水ノ害ヲ蒙ルカ如キ場所ニ在リテ將サニ汎濫セントスルノ兆アル時又ハ監房修築等ニ着手セシ場合ニアリテ戒護上擱キ難キ時其他官用ノ事業ニシテ急施ヲ要スルモノ有之ニ於テハ臨機服役時間外服役セシメ候様致度又洒掃夫ノ如キ一般囚人ノ罷役後尙ホ使役ヲ要スルモノニアリテハ炊夫看病夫ニ準シ常ニ服役時間外服役セシメ候様致度尤モ是等時間外ニ使

役セシ場合ニ在リテハ科程外ノ工錢ヲ給與スヘキ見込ニ有之候右ハ差掛リタル件有之候ニ付至急御指揮相成度此段稟請候也

○警保局長通牒 明治二十四年八月

囚人作業ノ儀ハ其方法如何ニ依リ地方人民ノ營業ヲ妨害スルニ至ルノ憂有之候間過度ニ多數ノ囚人ヲ一工業ニ使役シ又ハ從來土地ノ住民幾多ノ營業者アル工業ヲ開設シ大規模ヲ以テ之ヲ施行シ由テ土地ノ小工業者ヲ壓倒シ或ハ將ニ發達セントスル民業ヲ阻絶スル等ノ弊無之様終始御注意有之度此段爲念及通牒候也

○役業科程標準

汎例

一科程ハ總テ一時間ノ割合ヲ掲クヘシ但役業ニ依リ實際一時間ノ割合ヲ算出シ難キモノハ十時三十分間ノ科程ヲ掲クヘシ  
一科程ノ單位ハ別紙ニ定ムル所ノ名稱ヲ用ヒ若シ該單位ニ端數ヲ生シ例ヘハ一



本ニ充タサルモノハ何分何厘ト爲シ又一本ニ超ユルトキハ何本何分何厘ト記載スルカ如シ

一等級ハ體力ノ強弱作業ノ熟否ニ依リ五等ニ分ツヲ定則トス然レトモ若シ五等ニ分ツ能ハサルモノハ之ヲ増減スルコトヲ得但此場合ニハ其事由ヲ備考ニ記スヘシ

一普通一人前ヲ爲シ得ル吉ノ科程ハ三等トシ其他ノ等級ハ三等ノ科程ヲ標準トシ毎等凡ソ二割ヲ増減シタルモノヲ以テ科程ト爲スヘシ

一例外ニハ体力技能ノ試験中又ハ病後等ニシテ未タ五等ノ科程ヲ附スルコト能ハサル者ノ科程ヲ掲クヘシ

一種目ハ可成別紙ニ定ムル所ニ依リ相似タルモノハ較照比準スルヲ要ス尤桶箆籠ノ如キハ種類多クシテ科程ニモ大差アルニ依リ各其品目ヲ別掲シテ科程ヲ定メテ可ナリ其他ノモノニ在ツテモ分別セサルヲ得サルモノアレハ之ヲ別ツモ妨ケナシ

一各種目中範圍廣クシテ種類多キモノハ其中ノ尋常品ニ就キ科程ヲ定メテ之ヲ

掲クヘシ

一炊夫掃除夫看病夫等ノ如キ科程ヲ定メ難キ役業ハ服役時間内使役スルヲ以テ其科程トスヘシ

煉化石工

種目	一等	二等	三等	四等	五等	等外
土練	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
形拔	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
仕上	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
干方	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
電積	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
運送	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全
撰方	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全	何本全

以下各業目ハ略ス

役業



○外役囚撰擇ノ件ニ付警保局長通牒

明治二十五年十一月十一日

監獄ノ外役ハ遇囚紀律上最モ注意ヲ要スルモノナルヲ以テ之ニ從事セシムル囚人ノ如キハ特ニ其撰擇ヲ慎マサル可ラサル儀ニ有之候處往々罪質刑期行狀健康等ヲ省察スルコトナク單ニ逃走ノ虞ヒナキ者ト認ムルノ故ヲ以テ外役ニ從事セシメ候向不少右ハ將來外役セシムヘキ囚人ハ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ身上ノ關係ヲ省察シテ之ヲ撰ミ初犯及偶發囚ニシテ刑期凡ソ六ヶ月以下ノ者ハ成ルヘク外役ニ服セシメサル機致度此段命ニ依リ及通牒候也

○警保局長回答

明治二十五年九月七日

七月二十一日監獄署發第九九五七號ヲ以テ御問合ノ趣了承右ハ御意見ノ通現役一百日ニ算入セサル方可然ト存候此段及回答候也

○處罰日數現役日數ニ算入方ニ付

宮城縣照會

明治二十五年七月二十一日

本月九日警甲第七號ヲ以テ貴省書記官ヨリ屏禁處罰囚ニ對シテハ自今工錢ヲ給與セサルコトニ定メラレ候趣通牒有之候處由之觀之現役一百日以内ノ者ニシテ處罰ヲ受ケントキハ右處罰ノ廉ヲ以テ其日數ハ現役一百日ニ算入セサル方可然哉今回會同ノ典獄協議會ニ於テモ一決致兼候條何分ノ御回答ヲ煩シ度此段及御照會候也

○內務省指令

明治二十二年八月二十六日

偷懶ニシテ怠役スル者ヲ處罰スルハ伺ノ通但午飯後ノ休憩ハ禁止スヘキ限リニアラス

○鹿兒島縣伺

明治二十二年八月七日

監獄則施行細則第二章第四十七條ニ科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシトアリ若シ正午時其大半ヲ爲シ得サル者ハ飯後ノ休憩ヲ禁止



シ尙ホ罷役ニ至リ該日ノ科程ヲ終ヘス偷懶ニシテ怠役スル者ハ相當處罰シ可然  
哉

○警保局長通牒 明治二十三年五月一日

他ノ作業ニ就カシメ休役セシムルヲ得サル儀ニ有之候

○嶋根縣伺 明治二十二年八月九日

監獄則第四十六條ニヨルトキハ風雨積雪ノ時ト雖モ休役セシムルヲ得サル譯ニ  
候得ハ精々使役方注意致候積ニ候得共本縣ノ如キハ多囚ヲ使役スヘキ工業ハ只  
ターノ竣工ノミニ有之然ルニ農家繁忙或ハ非常ノ大雪等ニ際スルトキハ該品購  
入方甚タ困難ヲ極メ時トシテハ數日間素品ノ欠乏ヲ告クルコト間々有之如此場  
合ニ於テハ不得止休役セシムルモ差支無之哉

○内務省指令 明治二十二年十一月十六日

本年九月監第三五號付伺定役ニ服セサル囚人作業ノ件ハ左ノ廉々ヲ心得許可ス  
ヘシ

- 一 著述翻譯ハ監獄則第十九條ニ據リ作業トシテ許可スヘキモノニアラス
- 一 翻譯ノ原書ハ監獄則第三十二條ノ制限ニ隨フヘキモノトス
- 一 本件ニ從事スル間ハ特ニ其場所ヲ設獨居房ニアリテハ別ニ場所ヲ設クルニ及ハスケ他囚ノ出入ヲ嚴  
禁シ其著述翻譯書ハ右場所外ニ持出スコトヲ許スヘカラス但其著述翻譯書  
脱稿ノ上監署ニ領置スヘシ
- 一 本件ニ要ナル費用ハ總テ自辨セシムヘシ但其物件ノ差入ヲ請フモノアル時  
ハ監獄則第三十九條ニ據ルヘシ

○警視廳伺 明治二十二年九月

定役ニ服セサル囚人ニシテ監獄内ニ於テ著述及翻譯等ノ作業ヲ爲サント請フモ  
ノ有之右ハ普通ノ作業トハ同一視シ難キモノニ候得共該著述書及翻譯原書ノ旨  
趣ニ於テ差支ノ廉ナシト見込候トキハ監獄則第十九條ニ依リ典獄ニ於テ之ヲ許



可シ可然哉

○内務省指令

明治二十三年四月十一日

二十二年七月二十七日付監第四六五號伺監獄則施行細則實施ノ件左ノ通心得ヘ  
シ

第一項 野紙工ヲ除クノ外認可ス

第二項 聞届ケ難シ

○宮城縣申請

明治二十二年七月二十七日

一改正監獄則施行細則第四十三條ニ竹工及染工野紙工ノ明文無之候得共本縣ニ於テハ從來右工役ヲ設ケ囚人ヲ服役セシメ來候處竹工ノ如キハ多クハ外役土方用鋤籠ノ修繕ニシテ其他ハ籠等ノ製造ニ有之又染工ハ囚人貸與被服用木綿ヲ着色ニ染ムルモノニシテ市中職工ニ委ヌルトキハ職工頗ル嫌厭シ爲メニ差支不尠偶々之ヲ請負フ者アルモ非常ニ高價ニシテ經濟上不得策ヲ來シ候ニ付

臨時右工役ヲ設ケ度而シテ野紙工ノ如キハ病後ノ疲勞若クハ老年者ニハ必用ノ工役ニシテ病後通常ノ輕役ニ服サシムルトキハ再發スルノ憂アルヲ以テ實際設ケサルヲ得サル役業ニ有之又同條中女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ以テ撰ムヘシト有之候處當縣監獄ニ於テハ靴足袋等ヲ編ムモノハ少年女囚ニシテ裁縫等ヲナシ得サルモノニ之ヲ教授シ亦鄉村ヨリ入監シ裁縫ヲ心得サルモノヲ使役スルニ差支ユル節ハ不得止右工業ヲ設ケ服役爲致度候  
二同第四十四條外役ノ項目中煉化工ノ明文無之候處本縣ニ於テハ從來人民設置ノ煉化工場ニ日々囚人ヲ外役爲致來リ候尤該工場タル人家ト離隔シ周圍ニ看守交番所ヲ設監獄内ノ工場同様取締ヲ付シ途中押送等ノ如キモ充分看守ヲ付シ取締向嚴重注意致候ニ付是迄ノ通外役爲致度候

○内務省指令

明治二十二年十一月四日

伺ノ通



○岡山縣伺 明治二十二年七月二十三日

監獄則第十九條刑事被告人監獄園内ニ於テ作業ヲ爲スヲ許可スル場合ニ於テ其指定スヘキ作業種目ハ施行細則第四十三條ノ種目ニ拘ハラス適宜指定スルヲ得ヘキ哉

○警保局長回答 明治二十五年三月二十二日

本月十九日監第五號ヲ以テ御問合ノ趣了承右刑事被告人家計補助ノ爲メ現行法律書又ハ古文書等(時々論說又ハ遊戯ニ屬セサルモ)ノ講議録著作ノ儀ハ取締ヲ嚴密ニシ特ニ其場所ヲ設ケ(獨居房ニ在ル者ハ別ニ設クルニ及ハス)且他ノ刑事被告人ノ出入ヲ嚴禁スルニ於テハ之ヲ許可スルモ不都合無之ト思考致候右及回答候也

○刑事被告人著作ノ儀ニ付京都府知事

照會 明治二十五年三月十九日

刑事被告人中家計補助ノ目的ヲ以テ現行法律書又ハ古文章(時々論說又ハ遊戯ニ屬スルモノヲ除ク)等

ノ講議録ヲ著作致度出願スルモノアリ假令監房外書信室ニ於テ筆記爲スモ許可スヘキモノニ無之哉曩ニ他府縣ニ在テ伺定ノ例モ有之趣傳聞スルモ確實ヲ得サルニ付一應及御問合候條至急何分ノ御回報相成度候也

○工 錢

○廳府縣集治監假留監宛内務書記官

通牒 明治二十五年七月九日

屏禁處罰中ノ者ト雖モ從來工錢ヲ給與致來候處該囚ニ對シテハ自今工錢ヲ給與セサルコトニ決定候條此段及通牒候也

○内務省指令 明治二十七年十一月五日

囚徒領置金ヲ以テ豫納金ニ充ツル件差支ナシ



○北海道廳伺 明治二十七年十月三十日

囚徒工錢領置金ヲ以テ控訴豫納金ニ充テ差支ナキヤ電信ニテ御指揮ヲ乞フ

○内務省指令 明治二十三年九月十七日

客年十二月二十七日第八五八號伺囚人増食及工錢ノ件左ノ通心得ヘシ

前段伺ノ通

後段水火其他變災ノ防禦ニ囚人ヲ從事セシメ得ルハ其變災ノ監獄ニ係ルトキニ限ル此場合ニ於テ増食ヲ與フルノ必要アレハ之ヲ給シ苦シカラズ但工錢ヲ給スルノ限リニ在ラス

○北海道廳伺 明治二十二年十二月二十七日

當廳各監獄署ニ於テ農事ニ使役スル囚徒ニ常食外一飯給與ノ儀ハ明治二十年六月二十二日御許可相成居候處服役中不測ノ故障ヨリ動作時限ヲ以テ罷役セシメ得ス其終結迄使役スルニハ往々動作時限外ニ涉ル場合有之即チ川船ニテ物品運

搬ニ囚徒ヲ使役スルニハ流木其他ノ障害ニ遭ヒ進航ヲ妨ケラレ或ハ沈没スル等ノ變アルニ際シ運搬物件ノ取揚ケ其他保安ノ手續ヲ爲ス等到底動作時限内ノ服役ヲ以テスルヲ得サル時ハ夫々科程外ノ工錢ヲ給與スヘキハ勿論ニ候得共若シ甚シク同時限ヲ經過シタルトキハ該時間ノ多少ヲ計リ定食ノ外適宜ノ増食ヲ給與スルモ不苦候哉又火災其他ノ變災ニ際シ動作時限外不時ニ在監人ヲ使役シタル場合モ前段ノ通り其時間ヲ計リ適宜増食ヲ給シ別ニ工錢ヲ給スルニ及ハサルヘキ哉

○内務省指令 明治二十二年九月十日

工錢ハ施行細則第五十一條ニ依リ料定ノ上仍ホ雜費ヲ控除スル儀ハ不相成

○愛媛縣伺 明治二十二年八月八日

監獄則第二十二條工錢料定方ハ現今世上人民賃錢ト時間トニ比準シ工錢額ヲ定メ其内ヨリ諸雜費トシテ貳歩五厘ヲ控除シ殘額ヲ各自工錢トシ給與工錢ヲ料定



致來リタル處斯ノ如クシテ可然哉

○内務省指令 明治二十二年十一月四日

伺ノ通

○岡山縣伺 明治二十二年七月二十三日

監獄則施行細則第五十二條病者ノ看護ヲ爲ス者ハ料定外ノ工錢ヲ給與スヘシトアリ然ルニ全則四十三條作業種目中ニ明文ナシト雖モ均シク役業ト看做シ服從セシムルノ旨意ナルカ

○内務省指令 明治二十三年三月二十五日

本年三月十日乙發第一三九號伺囚人工錢返納願ノ件開届ケ難シ

○富山縣伺 明治二十三年三月十日

囚人飯野兵江ナル者ハ官文書偽造及監守金盜取罪ニ依リ明治十九年十二月三日

富山重罪裁判所ニテ輕懲役七年ニ處セラレタルモノニテ行刑以來常ニ獄則ヲ謹守シ役業モ亦勉勵シ悔改ノ狀アルモノニシテ賞衣モ既ニ二個ヲ附與シアルモノニ有之然ルニ今ヤ給與工錢之儀ニ付別紙寫ノ通出願候ニ付尙篤ト取調フルニ夙ニ不心得ヨリ斯ル重罪ヲ犯シ今更慚愧ニ堪ヘサル所ナリ然ルニ身自カラ重罪ヲ犯シツ、却テ地方稅ヲ食ミ剩ヘ所得工錢ノ幾部迄ヲ給與セラル、ノ恩遇アリ何ソ狀シテ之ヲ甘受スルヲ欲センヤ故ニ既往ニ係ル領置給與錢(現在金八拾四錢七厘)ノ半數ハ之ヲ官ニ返納シ猶將來ニ向テ得ル所ノ工錢モ其半額ハ之ヲ返納シ以テ地方稅ノ半分ヲ償ント云フニアリ抑モ上來ノ事實タル悔悟ノ本心ヨリ出ツルモノナレハ法律規則ニ明文ナシトテ一朝之ヲ却ケナハ彼改悛ヲ毀傷スルノ患ナキニアラス且如斯事ハ地ノ囚徒改心上ノ龜鑑トモ可相成事ト存セラレ候條斯ル奇特ノ願旨ハ開届不苦哉

退テ本支開届ケ不苦儀ニ候ハ、該金ハ本囚カ指定スル地方稅雜收入ニ組込可然哉



○内務省指令

明治二十三年三月二十四日

本年二月二十七日監第四號伺監視執行ノ爲メ別房ニ留置中ノ者賄費支辨ノ件十八年當省甲第十三號達ニ據ルヘシ但本人工錢ヲ以テ衣食費ヲ償ヒ得タル金額ヲ控除スル儀ト心得ヘシ

○京都府伺

明治二十三年二月二十七日

刑法附則第三十二條ニ依リ別房留置人ノ費用ハ從前ノ如ク本人得ル處ノ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フヘキ筈ニ可有之候處茲ニ輕罪ノ控訴囚ニシテ前裁判所ノ甲地ヨリ控訴院所在地ノ乙監獄ニテ服役ス其主刑執行中ハ明治十八年四月御省甲第十三號御達ニヨリ甲地ノ地方稅ヲ以テ支辨スルハ勿論ニ有之候處主刑滿期監視執行ノ爲メ乙地監獄ノ別房ニ留置中ノ費用ハ前顯ノ如ク總テ本人得ル處ノ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ支辨シ不足アレハ是亦甲地ノ地方稅ヨリ償還可致儀ニ候哉又ハ乙地ノ地方稅ヲ以テ其不足金ヲ支辨シ可然哉右ハ本刑滿期別房ニ留置中ハ性質一變シテ控訴囚ヲ以テ名目スヘカラサルモノナレハ御省

甲第十三號御達ニハ包含セサルモノト存セラレ疑義ヲ生候ニ付至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

○警保局長回答

監坤第三八二號ヲ以テ囚徒工錢取扱方ノ儀ニ付御問合ノ趣了承右ハ大藏省訓令第六十六號第二條第三項ハ北海道廳及沖繩縣ノ如キ國庫收入ノモノニ適用スル筈ニ付貴縣ニ於テハ從前ノ通御取扱相成可然存候此段及御回答候也

○廣嶋縣問合

明治二十三年二月二十六日

囚徒工錢ノ儀ハ客年七月勅令第九十三號監獄則第二十二條ニ依リ取扱來リ候處客年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入収納取扱順序第二條第三項ニ囚徒工錢云々ト有之右ハ各作業者へ給與セシ其餘分ニ該當候モノニ有之候哉果シテ然ラハ該順序ニ依リ收入ヲナシ置キ追テ監獄則第二十二條ニ依リ監獄ノ費用ニ供スヘキ儀ニ有之候哉



○内務省指令 明治二十二年七月二十九日

本年七月甲第三九五號伺懲罰囚工錢ノ儀伺之通

○群馬縣伺 明治二十二年七月十七日

賭博犯懲罰囚ノ工錢ハ其罰期六年以上十年以下ノ者ト雖モ十七年一月太政官達第十號ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ準シ總テ十分ノ二ヲ給シ來リタル所今般監獄則改正發布相成其第二十二條ニ工錢ハ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ云々トアリ就テハ矢張輕罪囚ニ準シ其四分ヲ與フヘキヤ

○警獄第一〇七號警保局長回答

監發第七九二號ヲ以テ囚人給與錢支給方之儀御問合ノ件右ハ貴縣ニ於テ取扱相成居候方法ニテ可然存候此段及御回答候也

○兵庫縣知事問合 明治二十六年五月十七日

凡ソ囚人ノ傭工錢ハ官司業ト人民請負業トニ區別ナク又業務ノ科程ニ依ルモノト科程ノ定メカタキ業務ナルトニ拘ラス其他普通ノ傭工錢ニ照ラシ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ先ツ一日若干ト定メ而シテ其料定工錢ヲ基本トナシ罪ノ輕重ニ隨ヒ二分四分ノ給與錢ヲ支給スヘキ儀ト心得居候最モ右様料定工錢ヲ基本トシ給與錢ヲ算出シ囚人其者ニ給與シタル上ハ他日製品販賣ノトキニ當リ物價ニ高低ヲ生シ自然監獄ニ於テ損益ヲ見ルコトアルヘシト雖モ給與錢ハ毎月ノ首ニ於テ前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘキモノ又製品ハ時機ニ應シ販賣スヘキモノナルヲ以テ時ニ或ハ數ヶ月間監獄ニ推積スルコト有之候得ハ損益ハ素ヨリ數ノ免カルヘカラサル儀ト存候然ルニ今般取調上參考ノ爲メ近府縣ニ問合セタルニ個數工錢(假令ハ仕上高百個若クハ千個ニ付何程ト定メタルモ)又ハ賃業(假令ハ一日一人平均何程ト定メタルモ)等ハ多クハ右ノ方法ニ依ラス假令ハ一日十人ニテ百個ノ煙草盆ヲ製造シ一個ノ工錢參錢ト定メ則チ金參圓ヲ得タルトキハ毎囚製造品ノ多寡ニ依リ得ル所ノ工錢自ラ等差アル



ヘシト雖モ兎ニ角一個當ツノ工錢全部則チ金參圓ヲ十人ニ割當シ其割當シタル  
金高ニ應シ給與錢ヲ算出シ又賃業モ同様ニテ仮令ハ一日一人平均五錢ト定メ百  
人ヲ使役シタル場合ニハ金五圓ヲ收入シ此全部ヲ基本トシテ給與錢ヲ算出スル  
ノ方法ナレハ業務ノ科程ハ毎囚ノ体力ニ應シ適當ノ定メアルヘシト雖モ各自ノ  
工錢ハ常ニ料定セス請負金高ノ多少ニ依リ時々變更スヘキ方法ニ有之右ハ前項  
本縣ノ取扱振違法ニ可有之哉各府縣歸一ヲ要スヘキ至要ノ問題ト存候間至急御  
回答相成度此段及御問合候也

○大藏省指令

本月二日收乾第九號伺國稅滯納者財產差押ノ件ハ其債權ヲ差押フヘシ

○廣島縣伺

明治二十七年三月十四日

本年前半年分租稅滯納者ノ内犯罪ニヨリ現今入監中ノモノアリ明治二十二年勅  
令第九十三號監獄則第二十三條ニ依リ典獄ニ於テ領置セル囚人ノ工錢ハ同則第

二十五條ニ依リ猥ニ支出セス滿期放免ノ際下付スヘキモノニ付使用上ニハ大ニ  
拘束ヲ與ヘアルモ國稅滯納處分法第十八條ニ於テ差押フルコトヲ得サル項目中  
明示ナキヲ以テ滯納者ノ得タル典獄領置ノ工錢ハ之カ差押ヲ爲シ得ヘキモノト  
シ可然哉目下差掛リタル事件ニ付直ニ御指揮相成度此段相伺候也

○內務省指令甲第二一號

本年一月十一日發監第二號伺監獄署構外ニ於テ錦業ニ囚徒使役之件聞届ク

○香川縣伺

明治二十七年三月十日

當縣監獄署男囚ノ作業ハ春米麥鍛冶工耕耘外役ニシテ他ノ雇木挽工抄紙工桶工木  
工鑄工製傘工ノ數種ニシテ其内殊ニ多囚ヲ服役セシムルハ尤モ厭フヘキ職工ニ  
テ日々四百名以上ニ有之之ニ亞クモノハ外役ニ有之是レ必竟工場狹隘工種僅少  
不得止實況ヨリ施行シ來レルモノニ外ナラス而シテ其鑄工業タル今更申迄モ無  
之不潔ニシテ利益寡ク何程督勵勉業セシムルモ決シテ食費ヲ償フニ至ラス實ニ



適當ナラサル業ナルモ如何セン亦廢スヘカラサル業ニ有之去リ迎今日ノ如ク多  
數ノ囚徒ヲ之レニ服役セシムルハ健康上ヨリ云フモ經濟上ヨリ見ルモ得策ニ非  
ス然ル處此度岡山縣岡山市錦莢製造特許人磯崎眠龜ヨリ右製造一切ノ業ニ當  
署男囚ヲ雇役致度出願シ其工場ハ當署ヲ去ル僅ニ二丁以內ニシテ民家隔絶ノ地  
ニ私費建設其構造タルヤ囚徒ヲ服役セシムルニ適當ニシテ且外圍ヲモ相設ケ殆  
ント監内工場同様且機械ハ勿論素品ニ至ル迄悉皆出願人ノ處辨ニシテ全ク雇役  
ニ應スル迄ニ有之果シテ之レニ出役セシムルトキハ第一困難ナル職工ノ八九歩  
ヲ減シ且外役ヲモ全廢スルヲ得ルノ見込ニテ至極適當ノ業ノミナラス工場ノ都  
合且ツ取締上ノ便利刑ノ施行上ニモ都合ヲ得ル儀ニ有之然ルニ右業種ハ監獄則  
施行細則第四十四條ノ作業種類外ニ候得共前陳ノ次第ニ付外役トシテ錦莢製造  
雇役ノ儀特ニ御認可相成度此段相伺候也

○内務省指令電報

領置工錢ノ件ハ民事訴訟法第六一八條第六等ニ依リ差押ヲ拒ムコトヲ得

○北海道集治監伺 明治二十八年七月十日

領置工錢ハ差押ヘヲ拒ムヲ得ヘキ哉至急御指令アリタシ



第十三類

衛生死亡、埋葬、書信接見、差入、身分帳

◎衛生死亡

○布告第三十四號

明治十三年七月九日

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埤利亞、發疹窒扶私及ヒ痘疹ノ六病ヲ云フ但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及最寄警察署ニ通知シ郡

衛生死亡



區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ハ警視廳水警ニ届出ヘシ但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治療死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第四條 虎列刺、發疹、瘰癧、扶私ノ病者アルトキハ地方廳ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他ノ四病ハ其流行ノ勢盛ナルニ及ビ之ヲ施行スヘシ

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルトキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹、瘰癧、扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ

難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外人ト交通ヲ絶タシムヘシ但患者治療死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ケナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具、衣服、器具及ヒ病室、船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ授受賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠圓、井溜、下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ



第十三條 虎列刺流行スルトキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルトキハ此規則ニ從テ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルトキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ選ミ検査委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルトキハ總テ検査委員ニ届出ヘシ但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得但要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條 發疹窒扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ

第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未



痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルトキハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルトキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

○布告第三十四號

明治十八年十一月

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ

三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ但天然痘ニ罹リタリ者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ會長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ但天然痘ニ罹リ



タル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ痘種明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○農商務省令第十一號

明治十九年九月

獸類傳染病豫防規則左ノ通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年二月内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則 (各條略ス)

○農商務省告示第十八號

明治十九年九月

獸類傳染病豫防心得 (條項略ス)

○内務省達甲第九號

明治十八年三月

警視廳 府縣

明治十三年九月當省乙第三十六號達傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書左ノ通追加候條此旨相達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラヌ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サトルヲ可トス

一 生後七十日ヲ經サル者

二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者

衛生死亡



三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者

四 蔓延性ノ皮膚病アル者

五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月)五月秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トヌ然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊<sup>三稜筋抵ニ於テ</sup>各々三針乃至五針<sup>受痘者ノ年齢トシ各針</sup>ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痴皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發暈非常ニ大ナル者 疱縁又ハ暈部ニ水

疱ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ膿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑

フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者 但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在

ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者

痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者<sup>第十三條ヲ參照スヘシ</sup>

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日<sup>二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ</sup>ヲ以テ佳トスト雖時

候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘

疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナル



第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘泡ノ中心ヲ避テ泡面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘泡ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷テヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
- 二 痘泡常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
- 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
- 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
- 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ

否

六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘泡全ク成形ス大サハ豆大ニシテ周圍ハ嫩腫シ微シク疼痛アリ泡

衛生死亡



中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ  
 或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫  
 起スルコトアリ  
 第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル  
 第十日ニハ疱液化痰シテ白濁或ハ黄色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然  
 レトモ其形必ス扁圓ナリ  
 第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收靨ヲ始メ疱ノ  
 中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退  
 ス  
 爾後暗褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結セ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝  
 離セズ結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形  
 又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニム更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス但一回  
 種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク  
 經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

十二日 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違ヒテ直ニ廣ク蔓延セシ  
 症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化痰シ其  
 隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黄色ニシテ鬆疎ナル痂  
 皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整形  
 當リテ以テ自ラ善感ノ者ヲ區別スルコト得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼  
 痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)  
 十三日 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿  
 液十六面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル  
 十四日 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遠ク潰瘍ニ陥ル  
 十五日 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ビ其潰  
 瘍十五面又ハ痂皮ノ周圍ニム廣ク赤色ヲ呈ス  
 第十六日 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ  
 第十七日 第五種種痘ノ注意諸事ハ本頁ニ於テ詳述ス



第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ  
因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後  
第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘  
ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者  
ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ  
第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケンシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平  
常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハヌ又別ニ醫藥ヲ要セス

○内務省令第二號 明治二十五年三月

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ明治二  
十二年三月内務省令第五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通改正シ明治二  
十五年四月一日ヨリ施行ス

(左記品目略ス)

○内務省令第三號 明治二十四年五月

コッホ結核病治療液(チロバール)使用ノ件  
(全文及表式略ス)

○内務省令第五號 明治二十四年五月

明治十九年六月當省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨ  
リ施行ス  
但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一  
日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ヌ其前日本藥局方ニ據ルモノハ前日本藥局  
方ノ六字ヲ明記スヘシ  
(左記各條略ス)



○大政官達第十四號 明治十三年二月二十五日

官省院使府縣

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事

官廳内拜ニ官有ノ工場及船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ  
但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ  
海軍遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

○内務省達甲第二十五號 明治十八年七月二十一日(文部卿兼署)

廳 府 縣

監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下附ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事  
但屍體剖視ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムヘシ

○内務省達 明治十八年七月三日

- 東京集治監 宮城集治監 三池集治監
- 樺戶集治監 空知集治監 兵庫假留監

在監人死體解剖ノ儀ニ付本年當省甲第二十五號ヲ以テ廳府縣ヘ達候ニ付テハ其  
監ニ於テモ右同様可心得此旨相達候事

○内務省指令 明治十八年十月二十二日

書而伺ノ趣左ノ通可心得事

第一條 伺ノ通但既ニ二十四時間ヲ過キ仮埋葬セシモノハ解剖ヲ許スヘカラサル者トス

第二條 伺ノ通

○栃木縣伺 明治十八年十月八日

衛生死亡

三頁



第一條 本年七月御省甲第二十五號御達ニ刑死者及病死者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得有之處右ハ監獄則第七十九條第一項ニ依リ其死亡シタル時ヨリ二十四時以内ニ遺骸ノ下付ヲ乞フ者ナケレハ直ニ解剖スルトセハ親屬故舊遠地ニ在ル者ハ或ハ失望ノ掛念アルニ付時限ニ關セス全ク遺骸ノ下付ヲ出願セザル者ニ限リ解剖差許儀ト心得可然哉

第二條 前條遺骸解剖之儀ハ曩ニ刑死者遺骸ノ下付ヲ乞フモノナキモノ、外何人ニ不拘本人ノ情願ニアラサル者ト遺屬者ノ承諾ヲ得サル者トハ解剖不相成旨神奈川縣ニ御指令之趣モ有之候處甲第二十五號御達ニ依レハ死者ノ情願并遺屬者ノ承諾ヲ要セサル儀ト心得可然哉

○内務省指令 明治二十二年五月二十三日 官製第... 遺骸... 親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキ刑死者及獄死者ニシテ生前其承諾ヲ得タルモノニ限リ官公立醫學校病院ニ於テ保存スル儀ハ苦シカラス

○新潟縣伺 明治二十二年二月二十四日 新潟縣... 死体解剖ノ儀ニ付テハ他ニ御指令ヲ向モ有之候處尙又骨格保存ノ儀モ差許シ苦カラサルヤ

○衛生局回答 明治二十二年四月八日 衛生局... 本人ノ情願書及遺族二名以上ノ證明書ヲ以テ出願致シ候節ハ御聞届相成不苦儀ト存候

○奈良縣照會 明治二十二年二月二十三日 奈良縣... 病体解剖ノ後醫師ニ於テ死者遺族ト協議ノ上患部ノ臓器ヲ乞受ケ保存候儀ハ無論差岡無之儀ト存候得共御意見承知致度候

○警保局長回答 明治二十八年二月十八日 警保局長... 衛生死亡



本年十二月二十日第九九六號ヲ以テ囚徒齒磨用トシテ食糧給與之件御問合之趣了承右ハ毎朝含嗽用トシテ給與相成候儀ハ苦シカラヌ其費用ハ御見込ノ通御取計相成可然經伺ノ上此段及回答候也

追テ食糧給與ニ付テハ盜食其他ノ犯則ヲ醸生スル儀ニ付之レニ對シテハ嚴密御取締相成度此段申添候也

○廳府縣及集治監宛警保局長

通牒

明治二十八年一月十九日

囚徒含嗽用トシテ食糧給與ノ儀ニ付北海道廳長官ヨリ別紙之通問合來候ニ付前書ノ通及回答置候條爲御參考此段及通牒候也

○北海道廳長官問合

明治二十七年十二月二十日

從來囚人ニハ齒牙掃除ノ資料ヲ給セサルカ爲メ齒齲炎症ニ罹ル者甚ク多シ該症ハ齒齲ノ不潔ニ基因シ齒齲ヲ毀テ遂ニ消食ニ障礙ヲ與ヘ不測ノ病患ヲ醸生スル

ニ至ルキニ付囚徒費ノ項囚徒雜費ノ目雜用品ノ節ヨリ齒牙掃除用トシテ毎朝各囚ニ食鹽適量(一囚ニ付凡ニ匙宛)ヲ支給致度右ノ別ニ差支ナキ儀ト存候得共一應及御問合候條至急御回示相成度此段及照會候也

○內務省指令

明治二十三年九月十六日

本年九月一日付監發第六四七號伺刑事被告人治療之件典獄ニ於テ不都合ナシト認ムルモノハ伺ノ通但密室監禁者ヲ除クノ外當該裁判官ノ允許ヲ受クルニ及ハス

○千葉縣伺

明治二十三年九月一日

刑事被告人疾病ニ罹リタルトキハ監獄醫師ヲシテ治療ヲ加フルハ當然ナルモ若シ監獄醫ニアラサル他ノ(入監以前治療ヲ受ケ居ルモノ又ハ監獄醫師ヲシテ治療ヲ受度)醫師ヲシテ治療ヲ受度旨願出ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ受ケ檢東上差支ナキ場合ニ於テハ監獄醫外ノ醫師ヲシテ診察及投藥ヲ許スモ不苦哉此段相伺候也

監獄人病氣ノ治療ノ法

衛生死亡



◎埋 葬

○太政官布達第二十五號

明治十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ヌ但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ヌ但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

- 第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ
- 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス
- 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取扱ケ内務卿ニ届出ヘシ

右布達候事

○内務省達乙第四十號

明治十七年十一月十八日

府 縣

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラタル者ニ限ル但已ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

埋 葬



第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ト境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民幅濶ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘテ日没後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ  
醫師ノ治療ヲ受タルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ  
妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産証ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ  
囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡証書寫ニ司獄



官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出ヌヘシ  
第十二條 區戶長ハ前條ノ届証書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許証ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出ヌヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

明治十九年二月  
内務省達甲  
第五號  
第十五條削除

○内務省令第十一號 明治二十四年七月二十七日

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名法號族籍年齢生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス  
其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス  
異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス  
第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス  
但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫真其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス  
其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査起訴拘留服刑中ノ者若クハ捜査起訴拘留服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視廳)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲タル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○太政官達第八十二號 明治十七年十月四日

警視廳 府縣

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事



○内務大臣指令

明治二十五年五月二十日

本年四月二十八日財務部第三一四九號伺囚徒遺骸仮葬ノ際白衣着用ノ件聞届ク

○北海道廳長官伺

明治二十五年四月二十八日

當廳所管集治監及監獄署拘禁囚ニシテ死亡シ其遺骸仮葬ノ場合ニ於テ之ニ着用セシムル衣裳之儀ハ本犯領置ノ衣類ヲ以テ之ニ充テ埋葬取計來候處中ニハ衣服ノ所持ナキ者往々有之是等ハ獄衣ノ儘埋葬取計フヘキモ死亡シタル上ハ本犯罪科モ已ニ消滅シ獄衣ノ儘ニテハ聊カ忍ヒサル事情モ有之候ニ付衣類所持ノ如何ニ拘ラス埋葬ノ際ハ粗末ナル白衣ヲ着用セシメ喪吊ノ意ヲ表シ候ハ、他囚ノ感情ヲ和ラクル一方便トモ可相成ト存候間極メテ廉價ナル白木綿ヲ以テ之ヲ製シ着用セシメ可然哉尤右費用ハ集治監ニ於テハ囚徒費囚徒雜費監獄署ニ於テハ在監人諸費ヨリ差操支辨可致此段相伺候也

○内務省指令

明治二十五年十月三日

本年九月二十日警岡第一〇〇號伺仮葬シタル囚人遺骸ニ關スル件警察署ノ許可ヲ要セサル儀ト心得ヘシ

○囚人遺骸改葬ノ儀ニ付

岡山縣知事伺

明治二十五年九月二十日

埋火葬ノ死屍ヲ改葬セントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘキコトハ明治十七年布達第二十五號第四條ニ明文有之然ルニ本縣監獄ニ繋留中ノ囚徒死亡シ仮埋葬セル後其死ヲ親族ヘ引渡サントスルニ際シ所轄警察署ノ許可ヲ受ケシムルトキハ其埋葬地監獄署ト接近セルモ所轄警察署トノ距離遠隔ニシテ往復ノ不便ナルヨリ漸々遺骸引取願ノ數ヲ減シ埋葬地ニ差岡困難之事情モ有之殊ニ囚徒ノ遺骸引渡ノ場合ノ如キハ監獄官吏立會候ニ付勿論不都合ノ事實無之就テハ右囚徒ノ遺骸ニシテ改葬スヘキモノ本縣在籍者ニ限り特ニ所轄警察署ノ許可ヲ省キ單ニ監獄署ノ證明ヲ以テ改葬セシメ候様致度右ハ規則ニ抵觸之儀ニ付決行致兼



候條至急何分ノ御指示相成度此段請訓候也

○警保局長回答 明治二十七年五月二十二日

本月十五日坤第七四七號ヲ以テ引取人ナキ在監刑死者及死亡者ノ遺骸解剖之件御照會之趣了承右病院トハ官公立ニ係ルモノヲ指稱シタル儀ニシテ私立病院ニ於テ解剖ノ爲メ下付ヲ請出候者有之モ許可スヘキ限リニ無之尙監獄醫ハ病死者若ハ變死者ノ死亡原因及病症ニ就テ不分明ナル點アリト雖モ其遺骸ヲ解剖スルコト能ハサル儀ニ有之候但事若シ變死ニ係リ其致命ノ原因ヲ確知シ難キ場合ニ於テ醫師ノ申立ニ依リ解剖ノ必要アルトキハ警察官ニ於テ相當ノ手續ヲ經テ醫師ヲシテ解剖セシムル様致度此段及回答候也

○奈良縣照會 明治二十七年五月十五日

引取人ナキ在監刑死者及死亡者ノ遺骸ハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得ルコトハ明治十八年內務省達甲第二十五號ヲ以テ御達ノ次

第モ有之候處右病院トハ官公立病院ヲ指稱スルモノト見解ヲ下シ候得共若シ地方醫師數名團合シ學術研究ノ目的ヲ以テ右等遺骸ヲ私立病院ニ於テ解剖セントテ下付ヲ請出候者有之節ハ之ヲ下付スルモ差支無之哉又明治二十二年內務省訓令第二十九號看守及監獄備人分掌例第三章醫師職務第五十條ニ於ケル病死者變死者ノ驗屍ニ就キ單ニ外形的驗屍ニテ死亡ノ原因不分明ノ爲監獄醫ニ於テ死體ノ解剖ヲ必要トスルトキハ之ヲ解剖セシムルヲ得ル儀ト思考致候得共未タ先例モ無之ニ付見解一定致置度右兩様共至急何分ノ御回答煩度候也

○內務省指令 明治二十八年三月十二日

本年二月十四日監發第二八二號伺在監人埋葬屍體燒燬合葬ノ件聞届難シ

○愛知縣伺 明治二十八年二月十四日

當縣監獄署附屬在監人死體埋葬場之儀ハ縣下愛知郡千種村地内ニ有之候處今般同所及其周邊ノ地ヲ以テ監獄署改築地ニ充用致度就テハ從來同所ニ埋葬致置候



刑死者及病死者ノ死体ハ他ニ移轉埋葬スヘキ等ノ處其内傳染病ニ罹リシ死体モ有之危險ノ恐アルヲ以テ此際悉皆之レヲ燒燬シ更ニ他ニ埋葬場ヲ撰定シ同所ヘ合葬致度尤モ右屍体ノ内未タ三年ニ滿タサルモノ有之候得共就レモ引取人ナキ者ニ有之候條御認可相成度此段相伺候也

○内務省指令

明治二十八年二月十九日

本年二月六日監發第二五六號在監人死體火葬ノ件ハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ限リ火葬ノ儀苦シカラヌ

○愛知縣伺

明治二十八年二月六日

在監人ノ死亡者及刑死者ノ遺體ハ監獄則第三十七條同施行細則第七十九條ニ依リ仮埋葬可取計管之處當縣ノ如キハ毎年八十人内外ノ死亡者アリテ之レカ埋葬場モ漸次狹隘ニ至リ且傳染病ニ罹リタル死體ノ如キハ危險ノ恐レモ有之候間自今其引取人ナキモノハ都テ火葬致度此段相伺候也

○内務省指令

明治二十二年九月十七日

本年九月二日監獄第一五三七號伺病死ノ囚人及刑死者遺骸解剖後火葬ノ件聞届ケ難シ

○滋賀縣伺

明治二十二年九月二日

病死ノ囚人及ヒ刑死者ノ遺骸引取人ナキモノ解剖ノ件ニ付明治十八年七月御省達甲第二十五號ノ次第モ有之候處解剖ヲ爲ス學校病院等ニ於テ解剖ノ後其遺体ヲ火葬シ遺骨ヲ以テ監獄ヘ返戻爲シ度旨申出ルトキハ假葬ノ費用ヲ消却セシメ其望ニ應シ可然儀ニ候哉

○内務省指令

明治十八年十月二十八日

許可スヘカラサル儀ト可心得



○靜岡縣伺 明治十八年十月六日

在監人死亡シ假葬シタル後親屬故舊ノモノヨリ住居遠地ニシテ且ツ貧困ナルニ依リ遺骸ヲ引取埋葬スル能ハサルヲ以テ死者ノ髮ノミ下付ヲ請フ者アルトキハ事情取糺シ全ク屬親在愛ノ哀情ニ出テタル者ハ許可シ可然哉

○内務省指令 明治二十三年二月三日

客年十一月十三日庶第一三三號伺逃走囚逮捕吏ニ斬殺セラレタル者埋葬費ノ件本籍所在地ノ地方稅教育費ヨリ支辨スル儀ト心得ヘシ

○德島縣伺 明治二十二年十一月十三日

北海道へ出稼中犯罪ノ廉有之札幌監獄支署ニ於テ拘留中逃走シ其後逮捕吏ニ抵抗セシヲ以テ斬殺セラレタル者アリ右埋葬諸費本籍ヨリ辨償スヘキ旨死亡地戸長ヨリ照會アリタルニ親族擧テ赤貧ニシテ辨償ノ途難相成救助願出ル者有之候

處右ハ行旅死亡人全様地方稅ヨリ救助候ハ不穩當ニシテ其拘置シタル地ノ監獄費ヨリ支辨スヘキ筋ト相心得候へ共聊カ疑團ヲ生シ候ニ付一應相伺候條至急何分ノ御指揮相仰キ候也

◎書信接見

○布告第五十九號 明治十五年十二月十六日

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

書信接見

明治十七年十一月三日  
第三號布告  
及往來  
郵便條例  
第一章  
郵便物  
第一條  
凡郵便物  
別テ四種  
ト爲ス  
一 書狀  
二 郵便葉書  
三 郵便筒  
四 郵便掛書



明治二十二年  
法律第二十  
一號  
正

- 三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録
- 四 書類帳簿各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙、營業品ノ見本及雛形
- (改) 四 書籍帳簿各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙、營業品ノ見本及雛形、農産物種子
- 第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得
- 第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ
- 第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
  - 一 截斷又ハ破却シタルモノ
  - 一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ
  - 一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ
  - 一 紙ニ墨又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
  - 一 紙ニ墨又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
  - 一 一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊著シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊著シタルモノ
  - 一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

明治十九年  
法律第二十  
一號  
正

- 第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ
- 其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ
- 第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス
- 第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ
- 第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第十一條 異種ノ郵便物ヲ合装スルトキハ總テ其種類中高額税ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

書信接見



明治二十二年  
法律第二十  
四號修正

明治十九年  
第四號修正

第十三條 第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除ク一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ山尺ヲ長一尺二寸幅八寸厚サ五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥劇藥流動物流動爆發燃腐敗シ易キ物字化スヘキ物動物植物及鋒刃器硝子器陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品

一 毒藥劇藥爆發燃燒シ易キ物品

一 流動物流動腐敗シ易キ物輝化スヘキ物動物植物鋒刃器硝子器陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出ヌモノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書畫圖寫真及物品

一金銀寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ二匁未満 二錢

第二種郵便物 一葉 一錢

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未満 二錢  
三號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未満 二錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ八匁未満 五厘

第五種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未満 一錢  
三號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未満 一錢

第六種郵便物 重量三十匁毎ニ三十匁未満 二錢

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定

書信接見

二百三十一

明治十七年  
第三號布告  
郵便物ノ下  
一葉一錢  
一葉一錢  
一葉一錢

明治二十二年  
法律第二十  
四號修正

明治十九年  
第四號修正



明治二十年  
五月廿三日  
郵務局長  
以下  
心  
得  
之  
以

アルモノハ此限ニアラス

第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手並封皮葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス  
第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ  
受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ヌ郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ

明治十九年  
五月廿三日  
郵務局長  
以下  
心  
得  
之  
以

不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便税納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數料並別配達料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ違ヌルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ



明治二十年  
信省告示第三  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十八年  
信省告示第九  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十七年  
信省告示第十  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十一年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十年  
信省告示第十  
八號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治九年  
信省告示第十  
九號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治八年  
信省告示第十  
十號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治七年  
信省告示第十  
一號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治元年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム

明治二十年  
信省告示第三  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十八年  
信省告示第九  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十七年  
信省告示第十  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十一年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十年  
信省告示第十  
八號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治九年  
信省告示第十  
九號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治八年  
信省告示第十  
十號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治七年  
信省告示第十  
一號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治元年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム

五三三

第三十六條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局  
ニテ賣下クベシ  
第三十七條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣  
下所ハ標板ヲ掲クベシ  
第三十八條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ  
賣買スベカラズ  
第三十九條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面稅額  
ヨリ低價ヲ以テ賣ルベカラス  
第三十條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効  
用ヲ有セス  
第三十一條 郵便切手並封皮葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及稅額印面不明  
瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レトモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ  
證人ヲ立テ其理由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買  
戻スベシ

明治二十年  
信省告示第三  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十八年  
信省告示第九  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十七年  
信省告示第十  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十一年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十年  
信省告示第十  
八號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治九年  
信省告示第十  
九號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治八年  
信省告示第十  
十號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治七年  
信省告示第十  
一號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治元年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム

明治二十年  
信省告示第三  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十八年  
信省告示第九  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十七年  
信省告示第十  
號ハ以テ驛遞  
局ハ心得シム  
明治十六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十一年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治十年  
信省告示第十  
八號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治九年  
信省告示第十  
九號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治八年  
信省告示第十  
十號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治七年  
信省告示第十  
一號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治六年  
信省告示第十  
二號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治五年  
信省告示第十  
三號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治四年  
信省告示第十  
四號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治三年  
信省告示第十  
五號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治二年  
信省告示第十  
六號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム  
明治元年  
信省告示第十  
七號ハ以テ驛  
遞局ハ心得シ  
ム

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮  
葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スベシ  
第四章 免稅郵便  
第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス  
第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳  
派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルベシ  
第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スベシ  
第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課  
名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記  
載スベシ  
第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スベシ  
第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ  
附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スベシ  
第五章 書留郵便

書信接見

三三三







之ヲ郵便ニ出スヘシ  
 其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ  
 第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納税又ハ不足税ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ  
 第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ  
 第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ  
 第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ  
 第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス  
 第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス

明治二十年  
 信寄告示第三  
 十五號ヲ以テ  
 郵便局ハ遞信  
 者ト心得シム

又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス  
 第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス  
 第六十六條 郵便物ヲ損害紛失及其損害紛失又ハ運達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責任モス  
 第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セザレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス  
 但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス  
 一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ送達スルモノ  
 一 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ送達スルモノ  
 一 貨物ト其ニ發スル無封ノ添狀送狀  
 第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ヲ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニア

書信接見

五百五十九

明治二十年  
 信寄告示第三  
 十五號ヲ以テ  
 郵便局ハ遞信  
 者ト心得シム



ラヌ

一 第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セザル額  
一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其  
出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局  
ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラ  
ス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニア  
ラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵  
便物ノ封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便  
切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラ  
ス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別ラニ類ト爲ス

一 市内郵便局所在地別配達

一 市外郵便局未設地別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大坂ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ  
十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタル  
モノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ  
其料六錢以上納済ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴

書信接見



收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

書信接見

明治十九年  
借書告示第六  
十六號ヲ以テ  
驛遞總官ハ驛  
遞局長ト心得  
シム明治二十



年同告第...  
十五號...  
信大...  
ト心...  
得...

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レヌシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其儘ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ

其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ  
留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達金額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

第一百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘラカス

第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第一百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

書信接見

二四十五

明治十九年...  
十六號...  
信大...  
ト心...  
得...

明治十九年...  
十六號...  
信大...  
ト心...  
得...



第百十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

第百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印刷ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送貨ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送貨及ヒ配達貨ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條 貨幣遞送貨又ハ配達貨ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額並還付ノ貨幣遞送貨及配達貨ヲ徴收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハヌ之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送貨及前後ノ配達貨ヲ徴收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハヌ

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送貨又ハ配達貨ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セヌ

第百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシム

書信接見

手続書

明治二十年  
十一月  
十五日  
信託局  
手続書



明治二十年  
信省告示第三  
十五號ハ以テ  
會下心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
十六號ハ以テ  
信大臣ト心得  
シム

明治二十年  
信省告示第三  
十五號ハ以テ  
會下心得シム  
明治十九年  
信省告示第六  
十六號ハ以テ  
信大臣ト心得  
シム

明治十九年  
信省告示第六  
十六號ハ以テ  
信大臣ト心得  
シム  
明治十九年  
信省告示第六  
十六號ハ以テ  
信大臣ト心得  
シム  
明治十九年  
信省告示第六  
十六號ハ以テ  
信大臣ト心得  
シム

第十一章 郵便沒書

第百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ沒入スルモノトス

第百二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條 沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第百二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ

有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ

第百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡ヌヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調

書信接見



明治二十年  
信書代示第三  
十五號ヲ以テ  
郵便局ハ爲替  
シム

印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第三百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第三百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第三百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第三百三十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第三百三十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第三百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金

明治二十年  
信書代示第三  
十五號ヲ以テ  
郵便局ハ爲替  
シム

ヲ受取ルヲ得ス

第三百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハヌ又第三百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第三百四十二條ニ依ルヲ得

第三百四十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第三百四十二條第三百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第三百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第三百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求ス











同上

明治十九年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十一年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十二年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十三年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十四年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十五年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十六年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十七年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十八年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治二十九年  
信託法第六  
條  
第六號  
明治三十年  
信託法第六  
條  
第六號

明治二十年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十一年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十二年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十三年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十四年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十五年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十六年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十七年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十八年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十九年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治三十年  
信託法第三  
條  
第十號

二百五十六

及利子記入ヲ受クヘシ

第七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日内ニ貯金領收通知書到達セザルトキハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金題並年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取證書ヲ受領スヘシ

- 一 東京 十日
- 一 東京ヨリ百里未満 三十日
- 一 東京ヨリ百里以外 六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告書ヲ出サ、ルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セザルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セス

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金金額若クハ幾分ノ

明治二十年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十一年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十二年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十三年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十四年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十五年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十六年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十七年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十八年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治二十九年  
信託法第三  
條  
第十號  
明治三十年  
信託法第三  
條  
第十號

同上

同上

拂戻ヲ請求スルヲ得但本タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ヌ

第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ

第七十八條 第七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻證書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セヌ又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八十條ノ手續ヲナスヘシ

書信接見

二百五十七



明治二十年  
信託法第三  
十五號ヲ以テ  
貯金局ハ爲替  
貯金局ト心得  
シム

第百八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ郵便局ニ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未満

二十五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

明治二十年  
信託法第三  
十五號ヲ以テ  
貯金局ハ爲替  
貯金局ト心得  
シム

同上

同上

第百八十六條 二人以上共同シテ預金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且ツ共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ金ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其届書ヲ郵便局ニ出スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印人引受人アル貯金預ケノ届書ヲ郵便局ニ出スヘシ

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印人引受人アル貯金預ケノ届書ヲ郵便局ニ出スヘシ

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加

書信接見



印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ  
證人ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人  
連印ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判  
明ナラサルトキハ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證  
書ヲ請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ獲シタル日ヨリ九十日  
間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタル  
トキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求  
シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期日內ニ通帳返付ナキカ又ハ再

明治二十年  
借省告示第三  
十五號ヲ以テ  
驛遞局ハ爲替  
貯金局長ト心  
得シム  
明治十九年  
借省告示第六  
十六號ヲ以テ  
驛遞局長ト心  
得シム

シ明治二十年  
年同告示第三  
十五號ヲ以テ  
驛遞局長ハ爲替  
貯金局長ト心  
得シム  
明治二十年  
借省告示第三  
十五號ヲ以テ  
驛遞局長ハ爲替  
貯金局長ト心  
得シム  
明治二十年  
借省告示第三  
十五號ヲ以テ  
驛遞局長ハ爲替  
貯金局長ト心  
得シム

明治十七年  
第三十三號布告  
ナリテ郵便業  
書ノ下ノ及往  
復業書ノ五  
字ヲ加フ

度ノ通帳或ハ拂戻證書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ證人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒  
ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償  
フノ責ニ任セズ

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱  
フルモ驛遞局ハ其責ニ任セズ

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書
- 三 書籍各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

書信接見



四 詞訟上及商用上ノ書類  
五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルト

キハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキ

ハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合装スルトキハ總テ

第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニキログラム凡五百三十二ニ超過

スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十凡四尺六寸、サシチ凡六分六厘、幅七凡、サシチ

メートル凡三寸三、厚五凡一、サシチメートル凡六分六厘、又其重量ハ二百五十凡、グラム凡

分五厘ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合装スルトキ其重量ハ第二百八條ノ

制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第三百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合彙書ヲ用ユヘシ

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ

還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

(正改)一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ

郵便物ヲ傷害スヘキ物品

(正改)一第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

明治十九年第四號布告ヲ以テ第三項改正



明治十九年  
信省告示第六  
十六號ヲ以テ  
郵便總局ハ  
局長ト心得  
シム

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便  
 税ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便税完納ニ限ルヘシ但到  
 達地ニ於テ課スヘキ郵便税ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第  
 二百十六條ニ背戾スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納税又ハ不足税ハ第十七條  
 ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便税書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ム  
 ヲ得之ヲ望ムトキハ郵便税書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便税書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼  
 付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便税書留手数料増手数料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名  
 及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ郵便總局公告スヘシ

明治二十年  
信省告示第三  
十五號ヲ以テ  
郵便總局ハ  
局長ト心得  
シム

明治二十年  
信省告示第三  
十五號ヲ以テ  
郵便總局ハ  
局長ト心得  
シム

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵  
 便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモ  
 ノ、外之ヲ紛失シタル國ノ郵便局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人  
 ニ五十フランクニテ凡金貨二十錢若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ  
 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便  
 物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶  
 ノ所有主若クハ其代理者ハ郵便局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ  
 以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ  
 此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二百六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三  
 十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便業書ニ亦適用スヘシ

書信接見

三頁十五



第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條<sup>第二百二十二條</sup>第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第一百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條<sup>第二百二十二條</sup>第七十三條第九十九條第一百條第一百一條第一百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百二十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハヌ第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受テ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一年以上二年以下ノ重禁錮



ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一  
等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス  
郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ  
加フ

第二百三十六條 疏虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五  
錢以下ノ料料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有税ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ  
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己  
ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一

明治十九年  
信省第六  
十號ヲ以テ  
郵務官ハ  
郵務長トシ  
シテ之ヲ  
監督スル  
年同治二十  
五年三月  
郵務長及  
郵務官ハ  
郵務長トシ  
ト心得シ

年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛、遞、總、官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛、遞、局認可ノ文字ヲ用ヒ  
タルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦  
同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸  
料料ヲ五日以内ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書  
函貸料料ヲ徴收セザルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルト  
キハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサハル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス  
第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシ



明治二十年  
倍者皆第三  
十五號ヲ以  
ト心得シム  
ハ郵便

チ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二  
月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記  
入ヲナシ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ  
第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年  
以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス  
第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上  
一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月  
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遅緩シタルトキハ五十錢以上一圓  
九十五錢以下ノ科料ニ處ス

二百七

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ  
テ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條  
第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノ  
ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○法律第二號 明治二十五年六月十六日

小包郵便法

第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之  
ヲ郵便ニ差出スコトヲ得  
第一 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但シ第二項ノ物品ハ郵便  
局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得  
第二 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若クハ音信文記入ノ物品

書信接見

二百七



第二條 小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト爲スコトヲ得但其價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 小包郵便物ヲ其受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セザル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其賠償ノ責ニ任ス

第四條 小包郵便料保險料賠償金額並ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其責ニ任セス

第一 天災其他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ

第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ

第四 本法郵便條例及其施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ

第六條 小包郵便物配達ノ際其外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領

シタルトキ亦同シ

第七條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其郵便物ノ差出人ヨリ遞信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但其請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此ノ期限ヲ經過スルトキハ政府其責ヲ免ス

第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其郵便物若ハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權若ハ第三者ニ對スル請求權ヲ當然承継ス但亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便物ハ郵便料ヲ免除ス第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メザル者及之ヲ徵收

書信接見



セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル

郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條 第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ二圓以

上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十四條 本法及其施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

附 則

第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

○遞信省令第十三號 明治二十五年九月二十七日

小包郵便法施行細則左ノ通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

小包郵便法施行細則

第一章 總 則

第一條 小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取所ニ限ルヘシ

第二條 小包郵便物ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達又ハ留置トナスコトヲ得但小包郵便ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ別配達ヲ請求スルコトヲ

得ス 配達證明又ハ別配達ハ一般ノ規則ニ依リ別ニ相當ノ手数料ヲ徴收ス

第三條 小包郵便物ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵便物ヲ送ラントス

ルトキハ最寄取扱局特別留置トナシ之ヲ差立ルコトヲ得

第二章 差 出

第四條 小包郵便物ハ表面ニ小包ト記載シ小包郵便取扱局所ニ差出シ其受取證

書ヲ受クヘシ

郵便函ニ投入シタルモノハ小包ノ文字ヲ記シタルモノト雖モ之ヲ小包郵便物

ト爲サズ總テ通常郵便物トシテ取扱フヘシ

第五條 小包郵便物ハ送票(甲號)ニ式ノ如ク記入シ其郵便料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添フヘシ其送票ニハ定式外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ズ但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス



第六條 小包郵便物ハ其品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ外包ヲ破却スルニア  
ラサレハ内品ニ損傷ヲ被ラシムルコト無キ様充分ノ手當ヲ爲スヘシ  
價額登記ノ小包郵便物ハ其外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ能ハサル様堅固ニ包  
裝シ之ニ三箇所以上封印ヲ施スヘシ

第七條 貨幣、舊貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶玉細工物ノ類ハ蓋付ノ罐  
又ハ堅固ナル蓋付ノ箱類ニ納メ内品ノ動搖セサル様詰込ミ其蓋ノ合セ目ニ錫  
蠟等ヲ注キ若ハ蓋ヲ釘著トナシ麻繩若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之ヲ封  
緘スヘシ

郵便切手、葉書、封皮、滯紙其他諸印紙類及有價證券、手形類モ亦前項同様ニ包裝封  
緘スヘシ  
郵便局ノ承諾ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモノハ其品質ニ應シ  
罐又ハ箱其他適當ノ包裝ニ依リ充分ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ様手當ヲナシ  
其品名ヲ表面ニ明記スヘシ

第八條 小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人ヲシテ更ニ之ヲ改

裝セシムヘシ

第九條 小包郵便物ノ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其  
郵便物ニ記載シ難キモノハ厚紙若ハ木札等ヲ附着シテ之ニ記載スヘシ

第十條 小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ宿所氏名、職業家號符號、商標及年月  
日ニ限ルヘシ但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス

第十一條 郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包入シタリト思料ス  
ルトキ又ハ表記品名ト包中物品ト相違セリト思料スルトキハ何時ニテモ其差  
出人又ハ受取人ヲ立會ハシメ之ヲ開封検査スルコトヲ得

第十二條 小包郵便物差出人其差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿所ニ關シ或ハ異動ア  
ルヘシト掛念スルトキハ豫メ之カ還付ヲ差立局所ニ請求シ置クコトヲ得

第三章 料金

第十三條 小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ但差出人ニ還付ノ場合ハ此限  
ニアラス

第十四條 小包郵便料ニ關スル里程ハ遞信省ニ於テ定メタル里程表ニ依ル



差立配達トモ郵便局ヲ同シクスルモノハ最近里程ノ率ニ依ル

第十五條 小包郵便物ノ重量ハ總テ郵便局所ノ秤量ニ依ルヘシ

第十六條 小包郵便物ヲ轉送又ハ還付スルトキハ其轉送又ハ還付ノ里程ニ從ヒ

更ニ郵便料ヲ徴收ス但其轉送若ハ還付ニシテ同一郵便區内ニ止リ其料金ニ異

動ヲ生セサルモノハ此限ニアラス

第十七條 轉送又ハ還付ノ郵便料ハ之ヲ差出人ヨリ徴收ス

第二十七條ニ依リ受取人ヨリ配達又ハ轉送ヲ請求シタルモノハ之ヲ受取人ヨ

リ徴收ス

第十八條 小包郵便物ノ受取人別配達料若ハ解船料ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包

郵便物ハ差出人ニ還付シ本條ノ料金ヲ併徴スヘシ但留置小包郵便物ノ受取人

自ラ其轉送又ハ配達ヲ請求シタル場合ニ於テハ本條料金ノ納付ヲ拒ムコトヲ

得ス若シ其郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ更ニ原留置局マテ回送スル郵便料及本

條ノ料金ヲ併納スヘシ

第十九條 未納料金又ハ不足料金ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ送

票ニ加貼シ未納又ハ不足ノ印ヲ捺スヘシ

第二十條 價額登記小包郵便物ノ轉送還付ニ對シテハ別ニ其保險料ヲ徴收セス

#### 第四章 留置

第二十一條 小包郵便物ヲ留置トナサントスルトキハ差出人ノ之ヲ差立局ニ請求

シ其留置證ヲ申受クヘシ

小包留置證ハ差出人ヨリ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第二十二條 留置小包郵便物到着シタルトキハ其留置局ヨリ直ニ其通知書ヲ受

取人ニ發スヘシ但受取人ノ宿所ヲ記載セサルモノハ此限ニアラス

第二十三條 小包郵便物ノ留置期限ハ其到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス

其期限ヲ經過シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

第二十四條 留置小包郵便物ヲ受取ラントスルトキハ小包留置證ニ記名調印シ

テ之ヲ差出シ受取人タルコトヲ證スヘシ

第二十五條 留置小包郵便物ノ受取人其留置證ヲ失ヒタルトキ又ハ通知書到達

シ後尙留置證ノ送達ヲ受ケサルトキハ其旨ヲ差出人ニ報スヘシ



差出人前項ノ報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ留置證ヲ失ヒタルトキハ最初小包郵便物ヲ差出シタル局所ニ就キ其受取證書ヲ證トシテ留置證ノ謄本ヲ申受ケ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ留置期限ノ相當猶豫ヲ留置局ニ請フコトヲ得

第二十六條 留置小包郵便物ノ受取人其代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ其留置證ノ裏面ニ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ其代人該小包ヲ受取ル手續ハ第二十四條ニ依ル

第二十七條 留置小包郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其小包郵便物ノ配達還付若ハ轉送ヲ其留置局ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ轉送ノ上更ニ留置ヲ請求スルモノ、外其留置證ハ總テ無効トス

第二十八條 此章ノ規定ハ總テ特別留置ノ小包郵便物ニ適用ス

第五章 送達

第二十九條 郵便局ニ於テ小包郵便物取扱中包裝損傷シタルトキハ相當ノ手當ヲ施シ其旨ヲ記シ取扱者ノ檢印ヲ捺スヘシ

第三十條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ其配達證書ニ調印シ之ヲ受取ルヘシ

同居ノ家族雇人ノ受取ルトキハ其旨ヲ記載シ本人ニ代リテ記名調印スヘシ肩書ノ家ニ於テ之ヲ受取ルトキハ其家主記名調印スヘシ

官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ之ヲ受取ルトキハ相當ノ資格アルモノ其配達證書ニ記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第三十一條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ未タ配達證書ニ調印セサル前ニ於テ其小包郵便物ヲ開封スルコトヲ得ス

若シ之ヲ開封シタルトキハ異議ナク其郵便物ヲ受取リタルモノトスヘシ

第三十二條 小包郵便物受取人不在等ノ事故ニ依リ初度配達ノ際之カ配達ヲ遂クル能ハサル時ハ一週間内便宜配達ヲ試ミ尙之ヲ配達シ能ハサルトキハ差出人ニ還付スヘシ但別配達ノモノト雖モ爾後ノ試配達ハ總テ通常配達便ニ依ル

第三十三條 小包郵便物ノ受取人移轉シタルトキハ郵便局ハ速ニ差出人ニ向ケ



送票乙號ヲ發シ之ヲ轉送スヘキカ又ハ之ヲ還付スヘキカヲ問合スヘシ差出人此問合ヲ受ケタルトキハ送票乙號中希望ノ欄ヲ存シ不用ノ欄ハ總テ之ヲ塗抹シ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ但第十二條ニ依リ豫メ還付ヲ請求シタルモノハ直ニ之ヲ還付ス  
其轉送スヘキ地同一郵便區内ニシテ轉送料ヲ増徴スルコトヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ配達スヘシ

第三十四條 前條ニ依リ差出人ニ問合セタル後普通郵便往復日限ヲ經過スルコト五日ニ至ルモ尙何等ノ申出ヲナサハルトキハ轉送ヲ希望セサルモノト看做シテ還付ノ取扱ヲナスヘシ

第三十五條 小包郵便物配達ノ際其外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ受取人ノ力受取方ヲ拒ムコトヲ得ス但破損ノ痕迹トハ之ニ依リテ其内品ヲ損傷シタルヘシト認ムル程ノ著大ナルモノニ限ル又遞送中ニ於ケル普通ノ磨擦若ハ濡濕乾燥等ノ故ニ依リテ増減シタル重量ノ異動ハ本條ノ限ニアラス前項ニ依リ小包郵便物ノ受取ヲ拒ム時ハ其事由ヲ認メ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條 受取人前條ニ依リ小包郵便物ノ受取方ヲ拒ミタルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ調査シ相當理由アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ若シ郵便局ニ於テ相當理由ナキモノト認ムルトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調査スヘシ  
受取人召喚ニ應セサルトキ又ハ立會調査ノ上之ヲ拒ムヘキ理由ナキコトヲ示シタルトキハ再ヒ之ヲ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 小包郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ其差出人小包郵便取扱局ノ郵便區外ニ在ルトキハ最寄小包郵便取扱局ニ留置キ其旨ヲ通知スヘシ差出人其通知ヲ受ケタルトキハ最初受領シタル受取證書ヲ差出シ其差出人タルコトヲ證シテ之ヲ受取ルヘシ  
代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ代人某ニ受取方委任スル旨ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第三十八條 通知書ヲ發シテ十五日以内ニ尙其受取方ヲ請求セサルトキハ配達還付シ能ハサル郵便物トシテ處分スヘシ



第三十九條 第三十五條及第三十六條ノ規定ハ差出人カ其小包郵便物ノ還付ヲ受ル場合ニモ亦之ヲ適用ス但受取人カ第三十五條第二項ニ依リ事由書ヲ附シタル小包郵便物ニ對シテモ差出人ハ更ニ還付ヲ受ケサル事由書ヲ配達人ニ交付スルヲ要ス

第四十條 差出人前條ノ事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルトキハ速ニ郵便局ニ出頭シ若クハ相當代人ヲ差出シ尙其事由ヲ陳述スヘシ

第四十一條 差出人前條ノ手續ヲナストキハ郵便局ハ其出頭人ヲ立會ハシメ郵便物ヲ開封シテ損害ノ有無ヲ検査シ果シテ損害アルコトヲ認ムルトキハ損害證明書二通ヲ作り其一通ヲ出頭人ニ交付スヘシ

第四十二條 差出人還付ヲ受ケサル事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルノミニテ第四十條ノ手續ヲ爲サハルトキハ郵便局ヨリ其差出人ヲ召喚スヘシ若シ其召喚ニ應セザルトキハ異議ヲ取消シタルモノト看做シ其郵便物ハ之ヲ還付スヘシ此場合ニ於テ差出人ハ之カ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第四十一條ニ依リ損害證明書ヲ作りタル小包郵便物ハ其賠償處分

ノ終了ニ至ル迄之ヲ郵便局ニ留置クヘシ

其賠償ヲ請求セザルモノハ速ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第四十四條 配達還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便沒書取扱ノ例ニ準ス

前項ノ取扱ニ附シタル小包郵便物ヲ更ニ送達スルトキハ第十六條ニ依リ料金を徴收ス

第六章 賠償

第四十五條 小包郵便物損害ノ賠償ハ其差立局所ヲ管スル一等郵便局ニ之ヲ請求スヘシ

損害賠償ヲ請求スルニハ其品名箇數實價請求金額並ニ之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ作り差立ノ際受取リタル受取證書ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ其損害證明書ヲ受取リタルモノハ尙之ヲ添フヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スルトキハ前項請求書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 小包郵便物受取證書ハ損害證明書ヲ失ヒ之ヲ前條請求書ニ添ユルコト能ハサルモノハ當該郵便局ニ就テ其原本ヲ申受ルコトヲ得



第四十七條 價額登記小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 登記金額

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 殘存ノ價額ト登記金額トノ差

但登記ノ價額實價ニ超過スルモノハ總テ之カ賠償ヲナサス

第四十八條 通常小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 重量百匁ニ付金拾錢ノ割合

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 損害部分ニ對シテ重量百匁ニ付金拾錢ノ割合

第四十九條 損害ノ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郵便料返付ノ請求アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ返付ス

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 料金ノ全部

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 亡失毀損セル部分ノ重量ニ對スル料金但料金算出方ハ既納料金ノ比例ニ依ル

第五十條 損害賠償ノ請求ヲ受ケタル一等郵便局ニ於テハ其請求ノ當否ヲ審査シ賠償ヲ要セサルモノト認ムルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ其賠償ヲ要スル

モノト認ムルトキハ第四十七條及第四十八條ニ依リ賠償金額ヲ定メ之ヲ請求

人ニ通知スヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スル場合ニ於テハ其返付ニ關スル決定ヲ其通知書中ニ記載スヘシ

第五十一條 賠償請求人前條ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アルトキハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ該郵便局ニ不服ノ申立ヲ爲スヘシ

前項ノ期限内ニ不服ノ申立ヲ爲サ、ルモノハ不服ナキモノト看做シ假ニ之カ處分ヲ爲スヘシ

第五十二條 小包郵便物毀損ニ對スル損害賠償ノ請求ハ其處分終了ニ至ル迄何時タリトモ差出人ノ隨意ニ之ヲ取消シ其郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 亡失小包郵便物ノ賠償ヲ爲シタル後該郵便物ヲ發見シタルトキハ郵便局ハ之ヲ差出人ニ通知スヘシ

第五十四條 亡失小包郵便物發見ノ通知ヲ受ケタルモノ其物品ノ還付ヲ請求スルトキハ其請求書ヲ作リ該通知書ヲ添ヘテ之ヲ差出シ同時ニ糞ニ受取リタル賠償金及郵便料ヲ返納スヘシ



小包常通用

小包送票

(甲)

印附日局立差	要 摘	欄付貼手切便郵	送 年 月 日 明 治 年 事 記	印 認 承	目 量	程 里
接立局取 送者印局取				名氏所宿人取受	名氏所宿人出差	里迄 引受 第
國 達 局 名				國 番 地 市 郡 村 町	國 番 地 市 郡 村 町	
印附日局建配						號

小包送票用紙雛形

小包送票登額價

紫色

(甲)

印附日局立差	要 摘	欄付貼手切便郵	送 年 月 日 明 治 年 事 記	印 認 承	目 量	程 里
接立局取 送者印局取				名氏所宿人取受	名氏所宿人出差	里迄 引受 第
國 達 局 名				國 番 地 市 郡 村 町	國 番 地 市 郡 村 町	
印附日局建配						號



用包小記登額價ハ色紫 用包小常通ハ色青 色紫及青

(2) 票		送		包		小		送票番號				
要箱	額付貼手切便郵	選付料金	轉送料金	國	市郡	村町	番地	國	市郡	村町	番地	小包番號
		金	金	國	市郡	村町	番地	國	市郡	村町	番地	第
<p>右受取人 國 市郡 村町ニ移轉ス候之ヲ移轉地ニ轉送スヘキヤ        又ハ還付スヘキヤ左ノ兩項ノ内希望ノ欄ヲ存シ之ニ相當スル郵        便切手貼付シ不用ノ欄ハ之ヲ捺捺シ來ル 且迄ニ其地達        立寄局ニ差出スヘシ</p>												

○勅令第五十七號

明治二十五年六月二十七日

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ  
里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徴収ス

第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加  
徴ス

小包郵便物一箇重量六百匁マテ 二錢

同 一貫匁マテ 四錢

同 一貫五百匁マテ 六錢

第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

容積  
長 曲尺二尺  
幅 曲尺二尺  
厚 曲尺二尺

重量 一貫五百匁

書信接見







電信條例

第一章 電報

第一條 凡電報別テ三種ト爲ス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一 通常電報

二 至急電報

三 追尾電報

四 同文電報

五 照校電報

六 受信電報

七 返信料前納電報

第三條 電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモ

ノトス

第四條 電信局長ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモ

ノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 電報書法

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ間ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞數字ヲ用フヘシ

第七條 電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ其合符原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章 電報料

第八條 凡電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内及壹岐對馬ニ發著スルモノハ此限ニアラス

書信抄見



第九條 電報料及手数料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 電報料及手数料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ頼信紙ニ貼

付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條 電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付

シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵

便切手ハ頼信紙ニ貼付セサルモノトス

第十二條 電報料及手数料ニ用ヒタル電信切手ハ電信中央局及分局ニ於テ消印

スヘシ

第十三條 電報料及手数料ハ過納アルモ已ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還

付セス

未タ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ已ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金ヲ還付

セス

第十五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遅延シ若クハ到達セサルモノハ其料金

ヲ還付ス照枝電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルコト判然シ  
タルモノ亦同シ

第十六條 料金還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以内ニ電信局長ニ申出ヘシ

此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ受理セス

第十七條 電報料及手数料ニ不足アルトキハ電信中央局及分局ニ於テ其電報ヲ

傳送スルモ其不足ノ料金二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金ヲ七日以内ニ徵收シ難キトキハ

發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收

スヘシ

第四章 電信切手

第十九條 電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十條 電信切手ハ電報料及手数料納濟ノ證トナスモノトス

第二十一條 電信切手ヲ賣ル者ハ電信局長ノ許可ヲ受ケ電信切手賣下所ノ標札

ヲ掲クヘシ



第二十二條 電信切手ハ電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第二十三條 電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第二十四條 返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シタルモノハ各其効用ヲ失フ

第二十五條 電信切手ノ汚損毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ説明シタルトキハ電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第二十六條 電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第五章 電報發送

第二十七條 電報ノ傳送ハ電信中央局及分局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條 電信中央局及分局ノ廢置並開局時間ハ工部卿之ヲ告示スヘシ

第二十九條 電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三十條 發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第三十一條 官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス

第三十二條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三十三條 電信中央局及分局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三十五條 電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

書信接見



第三十六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ着信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタルモノハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十七條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達船配達ハ此限ニアラス

第三十八條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第三十九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ

別使又ハ船船ヲ以テ配達スル電報ハ手数料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ

第四十條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ着信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四十一條 未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還ヲ請求スル

トキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四十二條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ電信局ハ一切其責ニ任セズ

### 第六章 尋問改正

第四十三條 受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ  
電信中央局及分局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收入シ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四十四條 發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

### 第七章 閱覽正寫

第四十五條 發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ證印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六



十日以内ニ之ヲ電信局ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許  
サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四十六條 凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスルモノハ工部卿  
ヘ願出ヘシ

第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供  
スルモノニ限り許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ  
電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四十八條 電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信局ニ於テ定メタル規約ニ從フヘ  
シ

第四十九條 私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用  
ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス  
第九章 海外電報

第五十一條 海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ  
取扱フヘシ

第十章 罰則

第五十二條 第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第五十四條 第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第五十六條 第四十六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器  
ヲ沒收ス

第五十六條 第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ  
處シ其狀情ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五十七條 第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以  
上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス



第五十八條 電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱本條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 電信ノ柱木條線ニ紙鷲ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信線ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條 偽計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 己レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條 已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條 電信局長ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ



第六十八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開被説明スルハ此限ニアラス

官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條 電信事務ヲ奉スル者頼信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未ダ消印ヲナサシ切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シ處斷ス

第七十條 電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依託ヲ拒ミタル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十二條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條 第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯

サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
第七十四條 第六十四條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

○布達第七號 明治十八年五月七日

電信取扱規則別冊ノ通相定ム

右布達候事

電信取扱規則

第一章 電報

第一條 官報トハ各官廳ノ公信並締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及領事ノ通信ヲ云フ但商人ニシテ領事ヲ兼ムル者ヨリ發出ナル電報ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スルモノニ非サレハ官報ト爲サス

第二條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局及中央局并分局相互ニ送受スル通信ヲ云フ

書信接見



第三條 私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ

第四條 發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得

第五條 至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章 電報書法

第六條 電報ニ用フル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第七條 莫爾斯字號左ノ如シ

片假名及數字

イ  
ロ  
ハ  
ニ

ホ  
ヘ  
ト  
チ  
リ  
ヌ  
ル  
ヲ  
カ  
ヨ  
タ  
レ  
ソ

Vertical lines representing the Morse code grid for the characters listed above.



書信接見

老 毛 七 五 三 二 一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

Vertical lines for writing on the left page.

十一

フ ケ マ ヤ シ オ ノ 井 夕 五 三 二 一

Vertical lines for writing on the right page.

十一



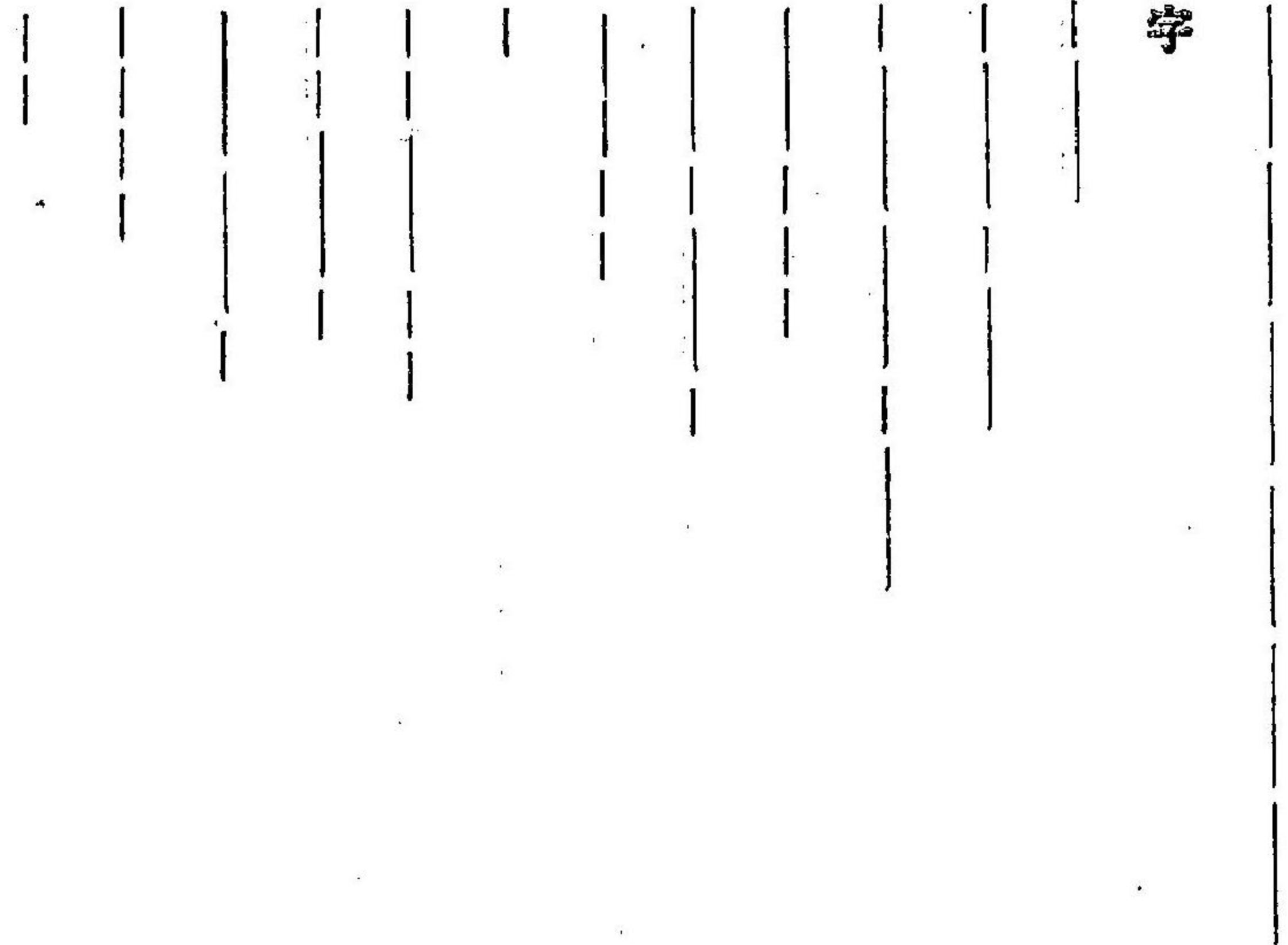
書信接見

i h g f e d c b / a a

又ハ

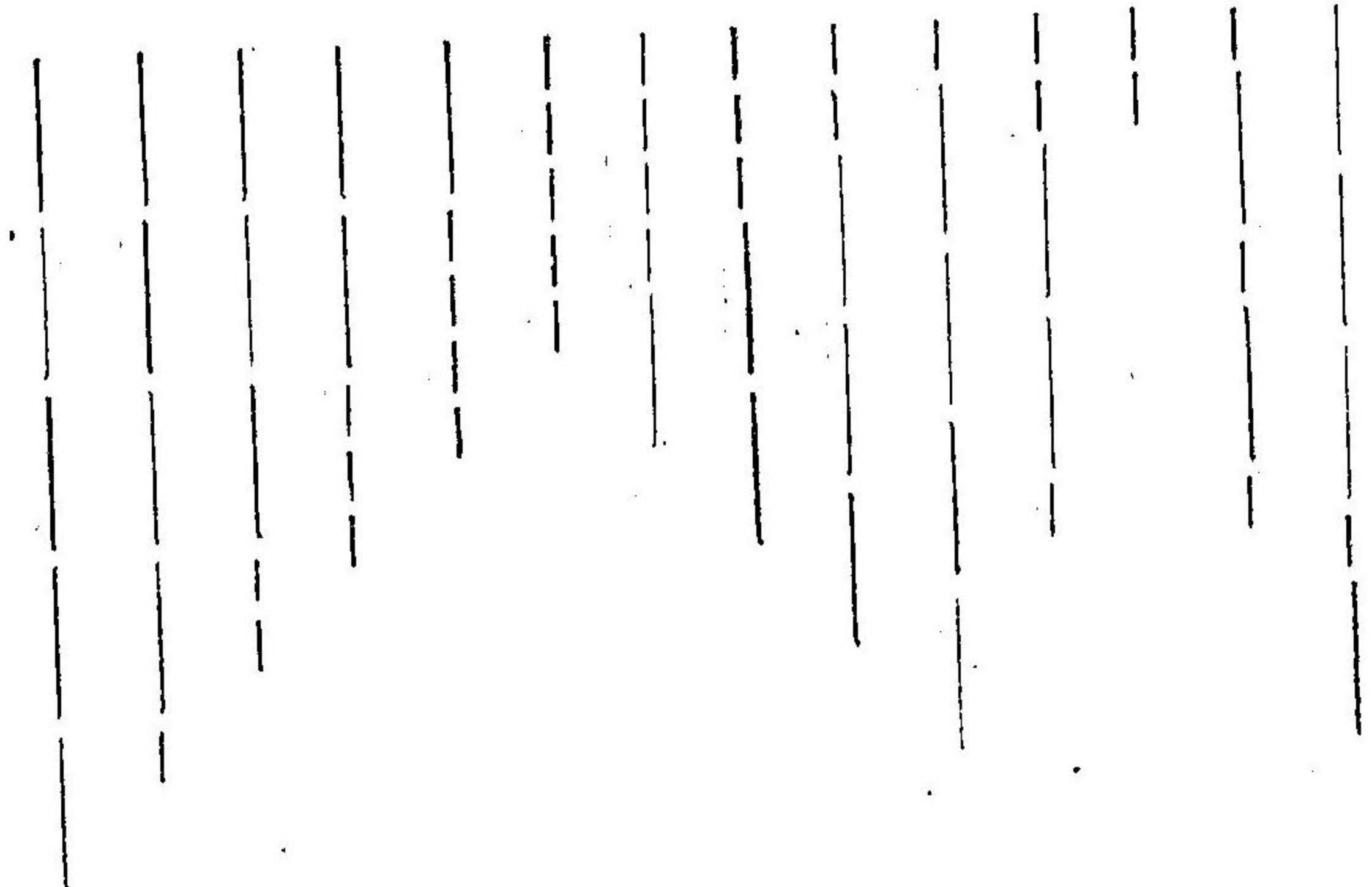
羅馬文字及亞刺比亞數字

歸除線 /



四

零 九 八 七 六 五 四 三 二 一 ○ 半濁點 濁點 ン ヌ



三



書信接見

8 7 6 5 4 3 2 1 z y x w v u

Vertical lines for writing on the left page.

三十四

u t s r q p o n m l k j

Vertical lines for writing on the right page.

三十四



電信接見

感符	!	
略符	,	
新章	—	
連續點	—	
括弧	( )	
轉倒句續	“ ”	
字下線	—	
略符號		
至急私報	ウナ	UR
追尾電報	ナナ	FS
改追尾電報	ナナ	RF
同文電報	ヨム	MT
照校電報	ムニ	TC
受信電報	ニナ	OR

電信接見

歸除線	/	
和文句讀點及記號		
句讀點	•	
新章	○	
括弧	□	
小括弧	□	
歐文句讀點及記號		
終點	.	
讀	,	
小讀	;	
重點	:	
問標	?	

電信接見



返信料前納電報

ナツ

局待

ヤム

親展

ニカ

郵便配達

ツツ

書留郵便配達

カナ

別使配達

マツ

解船配達

ハホ

BD XP LR PP CL WT RP

第八條 普通辭トハ和文ハ片假名歐文ハ羅旬語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ但電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通辭ト看做スヘシ

第九條 秘辭トハ普通辭ニ非ス文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

第十條 隱語トハ每語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全體ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ

第十一條 普通辭中秘辭ヲ用ヒタルトキハ括弧ヲ以テ秘辭ノ前後ヲ圍ムヘシ

第十二條 秘辭ヲ用ヒタル私報ニハ文字ト數字トヲ混用スヘカラス

第十三條 普通辭ヲ用ヒタル和文ニハ數字ヲ混用スルコトヲ得

第十四條 和文ニハ普通辭秘辭隱語ヲ問ハス第十五條ノ場合ヲ除クノ外ハ亞刺比亞數字ヲ挿入スヘカラス

第十五條 和文ニハ歐字及之ニ附屬シタル亞刺比亞數字ヲ挿入スルコトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十六條 受信人ノ住所氏名ハ着信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ國名及郡區名ヲ記スヘシ但詳明ヲ要スルモ警語ヲ用フヘカラス

第十七條 宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ

第十八條 受信人ノ住所氏名ハ豫メ電信局ト約定シテ略號ヲ常用スルコトヲ得

第十九條 第七條ニ記載シタル略符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ略符號ニ改書スルモノト

書信接見

千三百九



第二十條 發信人ノ賴信紙中ニ記シタル略符號判然タラサルモノハ都テ通常電報ト爲シテ取扱フヘシ

第三章 字數計算

第二十一條 和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條 和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ二字ニ計算スヘシ

例

ハ 二字

ビ 二字

第二十二條 和文中ニ用ヒタル數字歸除線句讀點及第十五條ニ記載シタル歐字及之ニ附屬シタル亞刺比亞數字ハ其一字又ハ一個ヲ片假名一字ニ計算スヘシ

例

八八<sup>三</sup>/<sub>六</sub>

數字歸除線合セテ五字

セキタンサン、ヒヤクエン

文字句讀點合セテ十二字

セキタン、サンヒヤクエン

全

19. NO 150

小括弧歐字及亞刺比亞數字合セテ八字

第二十四條 和文中ニ用ヒタル括弧及小括弧ハ之ヲ片假名ニ計算スヘシ

第二十五條 歐文ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十六條 歐文中文字又ハ數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十七條 歐文中聯記シタル數字五個ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五個ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十八條 歐文中順序數ヲ作ル爲メ數字ニ加ヘタル文字ハ之ヲ數字一個ニ計算スヘシ

例

17<sup>三</sup>

一語數字文字合セテ四個

1778<sup>三</sup>

二語全 六個

書信接見



第二十九條 歐文數字中ニ用ヒタル分數點讀點及歸除線ハ一個ヲ一字ニ計算ス

例

44.55 一語 數字分數點  
合セテ五個

44,560 二語 數字讀點合  
セテ六個

510j 二語 數字歸除線  
合セテ六個

第三十條 歐文中ニ記入シタル句讀諸點連續點略符新章ハ之ヲ語數ニ計算セス

但此記號ハ必シモ傳達スルヲ要セス

第三十一條 歐文中連續點ヲ以テ繋キタル辭及略符ヲ以テ分チタル辭ハ其分辭

毎ニ一語ニ計算スヘシ

例

Weston-supernare 三語

New-york 二語

I've 二語

第三十二條 歐文中字下線ヲ每語ニ引キ又ハ二語以上ニ繋ケテ引クトキハ一個

ヲ一語ニ計算スヘシ

例

The matter is urgent.

leave at once

七語并字下線二  
個合セテ九語

第三十三條 歐文中ニ用ヒタル括弧轉倒句讀ハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第三十四條 歐文普通辭中秘辭ノ雜リタルモノハ其普通辭ハ通常ノ例ヲ以テ之

ヲ計算シ數字又ハ文字ノ聯集シタルモノハ數字ノ例ニ依テ之ヲ計算シ第八條

ニ記載シタル國語ニ非サル語辭ハ文字ノ聯集ト看做シテ之ヲ計算スヘシ

第三十五條 歐文中國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省略シタ

ルモノハ普通辭ノ例ヲ以テ計算スルコトヲ得ス然レトモ府縣名地名其他官位

氏名等及文字ニテ記載シタル數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明ニスル爲メ用ヒタル

語數ニ因テ計算スヘシ

第三十六條 第七條ニ記載シタル略符號ハ和文ハ二字歐文ハ一語ニ計算スヘシ

書信接見

三三三



第四章 電報料及手数料

第三十七條 國內一市内及壹岐ヲ除ク對馬ヲ除ク通スル電報料左ノ如シ

一 和文 片假名十字以内 一音信金拾五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増ス

一 歐文 一語毎ニ 金拾錢

五語以内ハ總テ金五拾錢トス

第三十八條 一市内ニ發着スル電報料左ノ如シ

一 和文 片假名十字以内 一音信金五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

一 歐文 一語毎ニ 金三錢

五語以上ハ總テ金十五錢トス

第三十九條 至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條 至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條 追尾電報料ハ尾追一回毎ニ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十二條 同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ金五錢歐文ハ金十五

錢トス

第四十三條 照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十四條 受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ増ス

第四十五條 電報料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ其端數ハ切捨ツルモノト

ス

第四十六條 歐文電報ノ住所氏名ノ略號通用料ハ一ケ年正貨十圓トス

第四十七條 條例第三十條ノ電報受取證書ノ手数料ハ金三錢トス

第四十八條 電例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁毎ニ金三錢トス

第四十九條 條例第三十九條ノ解船配達料ハ金二十錢トス

第五十條 條例第四十五條ノ原信正寫ノ手数料ハ和文百字以内毎ニ金貳錢歐文

百語以内毎ニ金十錢トス

第五十一條 料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ着信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤認遲延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添ヘ發



信人ヨリ電信局長ニ申立ヘシ但時宜ニヨリ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條 電報遅延ノ申出ハ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ届先ニ達シタル者ニ限ルヘシ

第五十三條 料金ヲ還付スルトキ前ニ電信切手又ハ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ電信切手ニテ還付シ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付スヘシ

第五十四條 同文電報ノ内若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料金ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條 料金ノ追納方ヲ通知シタルトキハ其通知ノ日ヨリ七日以内郵便往復ノ日數ヲ除クニ納ムヘシ此期限ヲ過ルトキハ條例第十八條ニ依テ處分スヘシ

第五十六條 發信人又ハ受信人ヨリ料金ヲ追納スルトキハ電信中央局又ハ分局ノ追徴證書ニ據リ電信切手若クハ通貨ヲ以テスヘシ又郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得ヘキ地ニ在テハ郵便切手ヲ以テスルコトヲ得但其通貨又ハ郵便切手ハ電信中央局及分局ニ於テ電信切手ニ換ユルモノトス

第五章 電報發送

第五十七條 發信人ハ電報一通ニ三名マテ連署スルコトヲ得

第五十八條 受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ電信中央局又ハ分局ニ預ケ置カントスルトキハ其局宛トナスモ妨ケナシ

第五十九條 電報ノ受取證書ニハ其手数料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第六十條 郵便ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信分局ヘ宛テ之ヲ差出スヘシ

第六十一條 郵便ニテ發出シタル電報ニテ閉局後ニ受取リタルモノハ翌日閉局ノ時傳送ノ手續ヲナスモノトス

第六十二條 發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信人電報ノ受信家ヘ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

書信接見



第六十四條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十五條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサル  
 トキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ著信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剩ア  
 ラハ發信人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徴收スヘシ  
 第六十六條 郵便ヲ以テ遞送スヘキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ畧符號ヲ以テ指  
 定スヘシ但別配達郵便ハ之ヲ取扱ハス  
 第六十七條 艦船宛ノ電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符  
 號ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十八條 艦船宛ノ電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達并別使  
 配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十九條 艦船宛ノ電報ニシテ解船配達ノ指定ナク實際解船ヲ要スルトキハ  
 其解船料ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ  
 第七十條 島嶼配達ノ電報ハ著信局ヨリ一里内外ニ拘ハラヌ別使又ハ郵便ヲ用  
 フヘキニ依リ何レカ其略符號ヲ以テ指定スヘシ但其記入ナキモノハ先拂郵便

ヲ以テ遞送スヘシ  
 第七十一條 島嶼ノ別使配達料ハ水陸トモ實費ヲ徴收スヘキニ依リ發信人ヨリ  
 豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ  
 第七十二條 電報ハ著信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ  
 第七十三條 電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ  
 第七十四條 受信人ニ配達スル送達紙ニハ無手数料ニテ其發信局名及依托ノ月  
 日時分ヲ記スルモノトス  
 第七十五條 送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所へ移轉シ其居所分明ナルモノ一  
 里ヲ超ヘサルトキハ別ニ手数料ヲ要セスシテ配達スヘシ一里ヲ超ユルトキハ  
 郵便ヲ以テ遞送スヘシ  
 第七十六條 條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ルヘキ人名ヲ指定ス  
 ルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ  
 第七十七條 電信中央局又ハ分局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其發信人及受信人  
 ノ住所氏名ヲ詳記シテ七日ヨリ少ナカラサル間其局前ニ揭示スヘシ



第六章 至急電報

第七十八條 官報私報ヲ問ハズ通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スルモノハ至急電報  
ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第七十九條 至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至  
急電報ノ略符號ノ次ニ「ヘン」ヲ記スヘシ

第七章 追尾電報

第八十條 發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスル  
トキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第八十一條 追尾電報ノ第一著局以外ノ料金ハ受信人ヨリ徵收スヘシ但一市内  
ニテ追送スルモノハ料金ヲ要セス

第八十二條 追尾電報ノ頼信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ  
第八十三條 追尾電報ノ略符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直

シテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直  
ニ之ヲ追送スヘシ若シ追送スヘキ居所不分明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信

人ヲ尋得サルトキハ電報ヲ留置クヘシ

第八十四條 追尾電報ノ略符號アリ且追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記シタルモノ  
ハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得サルトキハ其終尾ノ  
局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省略セ  
ズ逐局之ヲ傳送ス然レトモ逐書シタル居所ハ其當サニ送ルヘキモノ、ミヲ存  
シ已ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ

第八十五條 追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲スト  
キハ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐局傳送スルコトヲ得

第八十六條 追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ略符號ノ次  
ニ返信料前納ノ略符號ヲ記シ第一著局マテノ返信料ヲ前納スヘシ

第八十七條 返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納  
ノ略符號ノ次ニ改追尾電報ノ略符號ヲ記スヘシ其著信局ニ於テハ第一著局マ  
テノ返信料ヲ受信人ニ交付ス

第八十八條 何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ電信分局へ移轉等ノ事由ヲ書面



ニテ申出置キ其電報ノ到着次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ント請求スル  
コトヲ得此電報ハ著信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ移轉ノ  
居所所在ノ著信局ヘ追送スヘシ

第八十九條 追尾電報ヲ著信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ遞送スルトキハ前拂郵  
便ヲ用ヒ其送達紙中ニ電報料及郵便税ノ金額ヲ記シ之ヲ追徴ス

第九十條 受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分  
ヲ記スルモトス

第九十一條 追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルト  
キ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依托人ニ事實ヲ報  
シテ其料金ヲ追徴スヘシ

第八章 同文電報

第九十二條 發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市内又ハ一市内ニ非サルモ著信  
局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名ヘ差出サントスルトキハ同文  
電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九十三條 同文電報ノ頼信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ略符號ト受信人ノ員  
數ヲ記スヘシ

第九十四條 同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電  
報料ヲ課スルモノトス

第九十五條 照校電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ照校電  
報ノ略符號ヲ記スヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報  
料ノミヲ課スルモノトス

第九十六條 受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ受信電  
報ノ略符號ヲ記シ同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ

第九十七條 同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコト  
ヲ請求セザルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者  
ハ同文電報ノ略符號ニ「レ」ヲ付シテ記スヘシ

第九十八條 住所ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ  
電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス

書信接見